

# 必修問題

# 必修問題

目標 I. 看護の社会的側面および倫理的側面について基本的な知識を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所	
1 健康の定義と理解	A 健康の定義	a 世界保健機関〈WHO〉の定義	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 B「健康のとらえ方」(p.94~96) 公衆衛生 : 第1章 A-2「ヘルス(衛生・健康)とはなにか」(p.15~16)	
		b ウェルネスの概念	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 B「健康のとらえ方」(p.94~96)	
	B 健康に関する指標	a 総人口		成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-1「国民経済の現状」(p.40~43) 公衆衛生 : 第6章 B-3「健康指標の基礎資料——人口を把握する」(p.135~138) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-1-1「総人口の変化」(p.30) 統計学 : 第6章 B-1-1「全国総人口」(p.171)
			b 年齢別人口	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-2「平均寿命と出生」(p.108~110)、E-1「少子高齢化」(p.126~128) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-1「国民経済の現状」(p.40~43) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-1-2「人口動態および人口構成の変化」(p.30~35) 統計学 : 第6章 B-1-2「性別・年齢別人口(人口ピラミッド)」(p.171~172)
		c 労働人口		基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-2「平均寿命と出生」(p.108~110)、E-1「少子高齢化」(p.126~128) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-1「国民経済の現状」(p.40~43) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-1-2「人口動態および人口構成の変化」(p.30~35)、A-5「雇用状況の変化」(p.42~44) 統計学 : 第6章 B-2「労働に関する指標」(p.173~175)
			d 将来推計人口	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-1「少子高齢化」(p.126~128) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-1「国民経済の現状」(p.40~43) 公衆衛生 : 第7章 C-2「超高齢社会・人口減少・少産多死に向かう日本」(p.193~194) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-1-2「人口動態および人口構成の変化」(p.30~35)
		e 世帯数		基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-7「家族」(p.116~118) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-3-1「世帯の変化」(p.37) 統計学 : 第6章 B-3「世帯に関する統計」(p.175~176)
			f 婚姻、家族形態	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-5「結婚と出生」(p.113~114)、D-7「家族」(p.116~118) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第2章 B-1「家族」(p.86~88)、第3章 B-1-2「多様化する女性のライフスタイル」(p.126~128) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-3-2「家族の機能と役割の変化」(p.37~39) 統計学 : 第6章 B-1-4「配偶関係別人口」(p.173)、B-3-2「世帯構造別人口」(p.175~176)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		g 出生と死亡の動向	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-2 「平均寿命と出生」 (p.108~110)、D-9 「老いと死」 (p.120~126)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-2-1 「生と死の動向」 (p.49~51)</p> <p>小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第1章 B-2 「出生と家族」 (p.10~12)、B-3 「子どもの死亡」 (p.12~15)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第2章 A-2-1 「出生に関する動向」 (p.59~65)、A-2-2 「死亡に関する動向」 (p.65~73)</p> <p>公衆衛生 : 第6章 B-2-2 「死亡率」 (p.132~133)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第2章 A-1-2 「人口動態および人口構成の変化」 (p.30~35)</p> <p>統計学 : 第6章 C-1 「出生に関するおもな指標」 (p.176~179)、C-2 「死亡に関するおもな指標」 (p.179~187)</p>
		h 死因の概要	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-9 「老いと死」 (p.120~126)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-2-1 「生と死の動向」 (p.49~51)</p> <p>小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第1章 B-3 「子どもの死亡」 (p.12~15)</p> <p>公衆衛生 : 第6章 B-2-3 「死因」 (p.133~135)</p> <p>統計学 : 第6章 C-2 「死亡に関するおもな指標」 (p.179~187)</p> <p>医学概論 : 付章 A-5 「死因統計」 (p.170~172)</p>
		i 平均余命、平均寿命	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-2 「平均寿命と出生」 (p.108~110)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-2-1 「生と死の動向」 (p.49~51)</p> <p>公衆衛生 : 第6章 B-2-1 「平均寿命、平均余命、健康寿命」 (p.131~132)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第7章 A-1-1 「長寿化の進展」 (p.162)</p> <p>統計学 : 第6章 E 「生命表」 (p.191~194)</p>
	C 受療状況	a 有訴者の状況	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 C-1 「国民全体の健康状態」 (p.102~104)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-2-2 「受療状況」 (p.51)</p> <p>統計学 : 第6章 D-1 「国民生活基礎調査」 (p.188~189)</p> <p>医学概論 : 付章 A-2 「有訴者率・通院者率」 (p.167)</p>
		b 有病率、罹患率	<p>公衆衛生 : 第6章 B-1 「疾患の発生状況を把握する」 (p.129~131)</p>
		c 受療行動、受療率	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 C-2 「患者の状況」 (p.104~106)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-2-2 「受療状況」 (p.51)</p> <p>総合医療論 : 第3章 A 「もしも私たちが病気やけがをしたら」 (p.56~70)</p> <p>統計学 : 第6章 D-2 「患者調査」 (p.189~190)</p> <p>医学概論 : 付章 A-2 「有訴者率・通院者率」 (p.167)</p>
		d 入院期間	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 C-2 「患者の状況」 (p.104~106)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第13章 B-1 「医療提供体制・諸制度の変化」 (p.360~362)</p> <p>総合医療論 : 第3章 A-2-4 「入院から退院まで」 (p.63~65)</p> <p>精神保健福祉 : 第5章 A-1-1 「入院患者の概況」 (p.122~125)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		e 外来受診の状況	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 C-2 「患者の状況」 (p.104~106)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-2-2 「受療状況」 (p.51)</p> <p>臨床外科看護総論 : 第7章 A-1 「現在の外来診療がおかれている状況」 (p.228)</p> <p>医学概論 : 付章 A-2 「有訴者率・通院者率」 (p.167)</p> <p>精神保健福祉 : 第1章 B-2 「精神保健福祉の課題」 (p.6~9)</p>
2 健康に影響する要因	A 生活行動・習慣	a 食事と栄養	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 B-4 「生活と健康」 (p.99~101)</p> <p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 A 「食事援助の基礎知識」 (p.27~35)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-2 「日常生活の状況」 (p.43~48)</p> <p>栄養学 : 第8章 「ライフステージと栄養」 (p.148~183)、第10章 「健康づくりと食生活」 (p.244~258)</p> <p>栄養食事療法 : 第1章 「栄養食事療法とは」 (p.2~11)</p>
		b 排泄	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第3章 「排泄援助技術」 (p.57~92)</p>
		c 活動と運動、レクリエーション	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 A 「基本的活動の援助」 (p.94~126)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-2 「日常生活の状況」 (p.43~48)</p>
		d 休息と睡眠	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 B-4 「生活と健康」 (p.99~101)</p> <p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 B 「睡眠・休息の援助」 (p.127~136)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-2 「日常生活の状況」 (p.43~48)</p> <p>解剖生理学 : 第8章 D-1-2 「睡眠」 (p.409~412)</p>
		e 清潔と衣生活	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 「清潔・衣生活援助技術」 (p.151~211)</p>
		f 喫煙、嗜好品	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 B-4 「生活と健康」 (p.99~101)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-2 「日常生活の状況」 (p.43~48)、第5章 C-3 「喫煙と健康問題」 (p.172~173)</p>
		g ストレス	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-4-2 「ストレス」 (p.133)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-2 「日常生活の状況」 (p.48)、第5章 B 「健康バランスに影響を及ぼす要因」 (p.164~169)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第2章 C 「ストレスと健康の危機」 (p.39~45)</p> <p>総合医療論 : 第3章 F-1-1 「ストレス」 (p.90)</p>
		h メンタルヘルス	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-4-5 「労働と失業」 (p.134~135)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-2-5 「心の病」 (p.56)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第1章 A-2 「日本における自殺問題とメンタルヘルス」 (p.3~4)、A-4 「世界的な課題としてのメンタルヘルス」 (p.6~7)、第2章 A 「精神の健康とは」 (p.26~33)</p> <p>総合医療論 : 第1章 B-2 「現代人の不健康感と社会生活のストレス」 (p.25~26)</p>
		i ライフスタイル	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 C-1 「生活者としての人間 : 『生活』の4つの側面」 (p.86~88)、第3章 B-4 「生活と健康」 (p.99~101)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		j 性行動	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 B-1「生活を営むこと」(p.28~30)、B-2「仕事を持ち、働くこと」(p.30~34)、第5章 B-1「ライフスタイルと健康問題」(p.164~165)</p> <p>総合医療論 : 第1章 B-3「ライフサイクルのなかの病」(p.26)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 A-2-1「青年期：大人になること」(p.9~17)、A-2-2「壮年期・中年期：大人であること」(p.17~26)、第5章 C-7-3「性感染症」(p.179~180)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第6章 B-2-2「性行動の実態」(p.266)</p>
	B 生活環境	a 水質、大気、土壌	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-3「日常生活を取り巻く環境」(p.48~49)、第5章 C-6-3「大気・空気・紫外線の問題」(p.176~178)</p> <p>公衆衛生 : 第4章 A-4「水質汚濁」(p.89~92)、A-5「大気汚染」(p.92~94)、A-6「土壌汚染」(p.94~95)</p> <p>医学概論 : 第8章 B-6「環境」(p.130~131)</p>
		b 食品衛生	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-3「日常生活を取り巻く環境」(p.48)、第5章 C-6-1「食品の安全性確保」(p.177)</p> <p>栄養学 : 第10章 D「食の安全性と表示」(p.254~258)</p> <p>公衆衛生 : 第4章 B-2「食品管理」(p.99~102)</p>
		c 住環境	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第5章 C-6-2「居住環境」(p.177)</p> <p>公衆衛生 : 第4章 B「身のまわりの環境と健康」(p.97~107)</p>
	C 社会環境	a 職業と疾病	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-4-5「労働と失業」(p.134)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 B-2「仕事を持ち、働くこと」(p.30~34)、第2章 A-2-4「自殺・職業性疾患・作業関連疾患」(p.54~56)、第4章 B-2「職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護」(p.157~160)</p> <p>精神看護学 [2] (精神看護の展開) : 第13章 F-1「労働者の心の健康(メンタルヘルス)の現状」(p.329~330)</p> <p>病理学 : 第1章 C-3「公害病・医原病・職業がん」(p.10~11)</p> <p>公衆衛生 : 第1章 B-3「富の増大と職業病——産業保健のはじまり」(p.20~22)、第9章 A-1「労働者の健康問題や労働災害」(p.304~309)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第5章 D-2-1「労災保険のしくみ」(p.137~138)、第8章 F-1-3「疾病の社会化」(p.242~243)</p>
		b 労働環境、雇用形態	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-6「仕事と生計」(p.114~116)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 B-2「仕事を持ち、働くこと」(p.30~34)、第5章 C-1「就業・労働形態の変化がもたらす健康問題」(p.169~171)</p> <p>公衆衛生 : 第9章「職場における健康とは」(p.302~304)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第2章 A-5-3「近年の雇用問題」(p.43~44)</p>
		c ワーク・ライフ・バランス	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-6「仕事と生計」(p.114~116)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 B-2-3「ワークライフバランス」(p.33~34)</p> <p>公衆衛生 : 第9章 C-3「男女共同参画とワークライフバランス」(p.320~321)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d 母性保護	<p>社会保障・社会福祉：第2章 A-5-4「仕事と余暇——ワーク・ライフ・バランス」(p.44)</p> <p>教育学：第4部 第1章-D-3「仕事以外の生活にも光をあてる」(p.203)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論)：第2章 B-4「社会文化的環境」(p.91~94)</p> <p>公衆衛生：第7章 A-3「母体保護のための母子保健活動(妊娠期の支援)」(p.158~160)、A-6-3「父親の役割と親性をはぐくむ取り組み」(p.168~169)</p> <p>社会保障・社会福祉：第7章 C-2-2「母子保健法と母子保健施策」(p.199~202)、C-3「少子化対策と子育て支援」(p.205~208)</p>
3 看護で活用する社会保障	A 医療保険制度の基本	a 医療保険の種類	<p>看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第4章 D-1「医療保険制度」(p.173)</p> <p>社会保障・社会福祉：第3章 B-2-1「医療保障制度の種類」(p.57~58)</p> <p>看護関係法令：第7章 A「費用保障」(p.191~199)</p>
		b 国民皆保険	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第6章 C-3-1「医療保険制度」(p.243~245)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第4章 D-1「医療保険制度」(p.173)</p> <p>社会保障・社会福祉：第3章 B-2「わが国の医療保障制度の特徴」(p.57~60)</p> <p>看護関係法令：第7章 A「費用保障」(p.191~199)</p>
		c 国民医療費	<p>公衆衛生：第7章 B-4-1「生活習慣病と健康日本21(第二次)」(p.181~183)</p> <p>社会保障・社会福祉：第3章 G「国民医療費」(p.81~84)</p>
		d 高齢者医療制度	<p>社会保障・社会福祉：第3章 D「高齢者医療制度」(p.71~76)</p> <p>看護関係法令：第7章 A-3「高齢者の医療の確保に関する法律」(p.197~199)</p>
		e 給付の内容	<p>社会保障・社会福祉：第3章 C-2「給付と患者負担」(p.65~69)</p> <p>看護関係法令：第7章 A「費用保障」(p.191~199)</p>
	B 介護保険制度の基本	a 保険者	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 B-1-4「福祉にかかわる対策——地域でのノーマライゼーションの広がり」(p.77~81)</p> <p>老年看護学：第2章 B-2-2「介護保険制度の整備」(p.39~48)</p> <p>在宅看護論：第4章 C「介護保険制度」(p.84~90)</p> <p>社会保障・社会福祉：第4章 B-2「保険者」(p.91~92)</p> <p>看護関係法令：第7章 A-4-1「保険者など」(p.199)</p>
		b 被保険者	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 B-1-4「福祉にかかわる対策——地域でのノーマライゼーションの広がり」(p.77~81)</p> <p>老年看護学：第2章 B-2-2「介護保険制度の整備」(p.39~48)</p> <p>在宅看護論：第4章 C「介護保険制度」(p.84~90)</p> <p>社会保障・社会福祉：第4章 B-3「被保険者」(p.92~93)</p> <p>看護関係法令：第7章 A-4-2「被保険者・保険料」(p.200)</p>
		c 給付の内容	<p>老年看護学：第2章 B-2-2「介護保険制度の整備」(p.39~48)</p> <p>在宅看護論：第4章 C「介護保険制度」(p.84~90)</p> <p>社会保障・社会福祉：第4章 B-5「保険給付」(p.94~105)</p> <p>看護関係法令：第7章 A-4-3「保険給付」(p.200~203)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d 要介護・要支援の認定	<p>精神保健福祉：第6章 B-3「介護サービス利用時の連携と看護」(p.183～186)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 B-1-4「福祉にかかわる対策——地域でのノーマライゼーションの広がり」(p.77～81)</p> <p>老年看護学：第2章 B-2-2「介護保険制度の整備」(p.39～48)</p> <p>在宅看護論：第4章 C「介護保険制度」(p.84～90)</p> <p>社会保障・社会福祉：第4章 B-4「要介護・要支援の認定」(p.93～94)</p> <p>看護関係法令：第7章 A-4-4「要介護認定および要支援認定」(p.203～204)</p> <p>精神保健福祉：第6章 B-3「介護サービス利用時の連携と看護」(p.183～186)</p> <p>老年看護学：第7章 A-1「介護予防と看護」(p.336～340)</p> <p>在宅看護論：第4章 C「介護保険制度」(p.84～90)</p> <p>公衆衛生：第7章 C-6-2「地域包括ケアシステムを支えるもの」(p.198～200)</p> <p>社会保障・社会福祉：第4章 B-5-10「地域支援事業」(p.103～105)</p> <p>看護関係法令：第7章 A-4-6「地域支援事業」(p.205)</p>
		e 地域支援事業	<p>精神保健福祉：第6章 B-3「介護サービス利用時の連携と看護」(p.183～186)</p> <p>老年看護学：第7章 A-1「介護予防と看護」(p.336～340)</p> <p>在宅看護論：第4章 C「介護保険制度」(p.84～90)</p> <p>公衆衛生：第7章 C-6-2「地域包括ケアシステムを支えるもの」(p.198～200)</p> <p>社会保障・社会福祉：第4章 B-5-10「地域支援事業」(p.103～105)</p> <p>看護関係法令：第7章 A-4-6「地域支援事業」(p.205)</p>
4 看護における倫理	A 基本的人権の擁護	a 個人の尊厳	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 B-2-3「看護の質保障に欠かせない要件」(p.37～41)、第5章 B-1「患者の権利とインフォームドコンセント」(p.186～187)、C-1「看護の本質としての看護倫理」(p.199～200)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章 F「看護実践における倫理的判断」(p.120～128)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論)：第1章 G「母性看護における倫理」(p.45～50)</p> <p>在宅看護論：第5章 D-1「個人の尊厳」(p.159)</p> <p>公衆衛生：第1章 C-3「日本国憲法のなかの公衆衛生」(p.30～31)、C-4「日本国憲法と世界人権宣言における健康と人権」(p.31～32)、第2章 B-1「看護職は「みんな」の権利をまもる守護神の1人」(p.47～48)</p> <p>救急看護学：第1章 D-2「倫理面への配慮」(p.43～46)</p> <p>クリティカルケア看護学：第6章 A-4「人格の尊重」(p.209～210)</p> <p>看護倫理：第2章 B「生命倫理の原則・規則」(p.25～29)、C「インフォームドコンセント」(p.29～35)</p> <p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第5章 B-1「患者の権利とインフォームドコンセント」(p.186～187)</p> <p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章 B-3「倫理的配慮と価値判断」(p.220～222)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章 F「看護実践における倫理的判断」(p.120～128)</p> <p>在宅看護論：第5章 D「在宅看護における権利保障」(p.158～169)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第2章 B-1「患者の権利」(p.21～22)</p> <p>公衆衛生：第2章 B「看護職の公的責任と活動対象」(p.47～50)</p> <p>救急看護学：第1章 D-2「倫理面への配慮」(p.43～46)</p> <p>クリティカルケア看護学：第6章 A-1「患者の権利と擁護」(p.206)</p> <p>看護倫理：第2章 B「生命倫理の原則・規則」(p.25～29)、C「インフォームドコンセント」(p.29～35)</p> <p>看護情報学：第7章 A「患者の権利と自己決定への支援」(p.144～149)</p>
		b 患者の権利	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第5章 B-1「患者の権利とインフォームドコンセント」(p.186～187)</p> <p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章 B-3「倫理的配慮と価値判断」(p.220～222)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章 F「看護実践における倫理的判断」(p.120～128)</p> <p>在宅看護論：第5章 D「在宅看護における権利保障」(p.158～169)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第2章 B-1「患者の権利」(p.21～22)</p> <p>公衆衛生：第2章 B「看護職の公的責任と活動対象」(p.47～50)</p> <p>救急看護学：第1章 D-2「倫理面への配慮」(p.43～46)</p> <p>クリティカルケア看護学：第6章 A-1「患者の権利と擁護」(p.206)</p> <p>看護倫理：第2章 B「生命倫理の原則・規則」(p.25～29)、C「インフォームドコンセント」(p.29～35)</p> <p>看護情報学：第7章 A「患者の権利と自己決定への支援」(p.144～149)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 自己決定権と患者の意思	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 B-1 「患者の権利とインフォームドコンセント」 (p.186~187)、C-2 「医療をめぐる倫理原則とケアの倫理」 (p.200~204)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 G 「意志決定支援」 (p.128~135)</p> <p>在宅看護論 : 第 5 章 D-2 「自己決定権」 (p.159)</p> <p>総合医療論 : 第 5 章 D 「生命倫理学と臨床倫理学の展開」 (p.122~127)</p> <p>救急看護学 : 第 1 章 D-2 「倫理面への配慮」 (p.43~46)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 6 章 A-5 「リビングウィルと DNAR・尊厳死」 (p.210~211)</p> <p>緩和ケア : 第 3 章 B-4 「自己決定の自由の実現」 (p.47~52)</p> <p>看護倫理 : 第 2 章 B 「生命倫理の原則・規則」 (p.25~29)、C 「インフォームドコンセント」 (p.29~35)</p> <p>看護情報学 : 第 7 章 A 「患者の権利と自己決定への支援」 (p.144~149)</p>
		d インフォームド・コンセント	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 B-1 「患者の権利とインフォームドコンセント」 (p.186~187)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 B-1-3 「医療にかかわる対策——健康への多様なニーズへの対応」 (p.72~77)</p> <p>成人看護学 [4] (血液・造血器) : 第 4 章 C 「造血器腫瘍」 (p.72~73)</p> <p>在宅看護論 : 第 5 章 D-2 「自己決定権」 (p.159)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 B-2 「インフォームドコンセント」 (p.22~25)</p> <p>総合医療論 : 第 5 章 G 「インフォームドコンセントと医療情報の開示」 (p.132~138)</p> <p>臨床外科看護総論 : 第 6 章 C 「インフォームドコンセント」 (p.205~207)</p> <p>救急看護学 : 第 1 章 D-2-1 「インフォームドコンセント」 (p.43~44)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 6 章 A-3 「インフォームドコンセント」 (p.208~209)</p> <p>緩和ケア : 第 4 章 A-1-4 「インフォームドコンセントと合意形成」 (p.55)</p> <p>看護倫理 : 第 2 章 C 「インフォームドコンセント」 (p.29~35)</p> <p>看護情報学 : 第 7 章 A-2 「インフォームドコンセント」 (p.145~146)</p>
		e ノーマライゼーション	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 B-1-4 「福祉にかかわる対策——地域でのノーマライゼーションの広がり」 (p.77~81)、第 8 章 B-2-3 「維持期のリハビリテーションと看護」 (p.233~234)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第 5 章 C-2-5 「統合失調症の治療」 (p.176~178)、第 7 章 B-10 「病院精神医学から地域・社会精神医学へ——社会療法の流れ」 (p.292~293)</p> <p>総合医療論 : 第 3 章 E 「障害者のノーマライゼーションと社会的包摂」 (p.85~89)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第 7 章 B-2-1 「ノーマライゼーション」 (p.174~175)</p> <p>人間関係論 : 第 11 章 A 「ノーマライゼーションの基本概念」 (p.234~237)</p> <p>リハビリテーション看護 : 第 1 章 A 「リハビリテーションの定義と理念」 (p.5)</p> <p>精神保健福祉 : 第 1 章 A 「人は人に支えられながら生きている」 (p.3)</p>
		f 情報管理(個人情報の保護)	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 B-2-1 「守秘義務の遵守と個人情報保護」 (p.188)</p>



大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			<p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 3 章 D-2 「記載・管理における留意点」 (p.258~260)</p> <p>在宅看護論 : 第 5 章 D-3 「個人情報の保護」 (p.159~162)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 G 「情報のマネジメント」 (p.128~136)</p> <p>総合医療論 : 第 5 章 H 「医療情報の開示と診療録」 (p.138~139)</p> <p>救急看護学 : 第 1 章 D-2-4 「プライバシー保護」 (p.46)</p> <p>看護倫理 : 第 2 章 D 「守秘義務・個人情報保護」 (p.35~37)</p> <p>看護情報学 : 第 8 章 「個人情報の保護」 (p.160~174)</p>
	B 倫理原則	a 自律尊重	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 C-2-1 「倫理原則」 (p.200~202)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 F 「看護実践における倫理的判断」 (p.120~128)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 1 章 G 「母性看護における倫理」 (p.45~50)</p> <p>人間関係論 : 第 3 章 A-3-3 「生命倫理の 4 原則」 (p.37~38)</p> <p>看護倫理 : 第 2 章 B 「生命倫理の原則・規則」 (p.25~29)、第 6 章 「看護倫理とはなにか」 (p.84~105)</p> <p>看護情報学 : 第 6 章 B-1-1 「自律尊重原則」 (p.138)</p>
		b 善行	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 C-2-1 「倫理原則」 (p.200~202)</p> <p>人間関係論 : 第 3 章 A-3-3 「生命倫理の 4 原則」 (p.37~38)</p> <p>看護倫理 : 第 2 章 B 「生命倫理の原則・規則」 (p.25~29)、第 6 章 「看護倫理とはなにか」 (p.84~105)</p> <p>看護情報学 : 第 6 章 B-1-2 「善行原則」 (p.138)</p>
		c 公正、正義	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 C-2-1 「倫理原則」 (p.200~202)</p> <p>人間関係論 : 第 3 章 A-3-3 「生命倫理の 4 原則」 (p.37~38)</p> <p>看護倫理 : 第 2 章 B 「生命倫理の原則・規則」 (p.25~29)、第 6 章 「看護倫理とはなにか」 (p.84~105)</p> <p>看護情報学 : 第 6 章 B-1-3 「正義原則」 (p.138)</p>
		d 誠実、忠誠	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 C-2-1 「倫理原則」 (p.200~202)</p> <p>看護倫理 : 第 2 章 B 「生命倫理の原則・規則」 (p.25~29)、第 6 章 「看護倫理とはなにか」 (p.84~105)</p>
		e 無危害	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 C-2-1 「倫理原則」 (p.200~202)</p> <p>人間関係論 : 第 3 章 A-3-3 「生命倫理の 4 原則」 (p.37~38)</p> <p>看護倫理 : 第 2 章 B 「生命倫理の原則・規則」 (p.25~29)、第 6 章 「看護倫理とはなにか」 (p.84~105)</p> <p>看護情報学 : 第 6 章 B-1-3 「無危害原則」 (p.138)</p>
	C 看護師等の役割	a 説明責任	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 1 章 B-2-3 「看護の質保証に欠かせない要件」、第 5 章 B-1-3 「看護とインフォームドコンセント」 (p.187)</p> <p>救急看護学 : 第 1 章 D-2-1 「インフォームドコンセント」 (p.43~44)</p> <p>看護倫理 : 第 6 章 D 「看護実践上の倫理的概念」 (p.94~102)</p>
		b 倫理的配慮	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 B-3 「医療専門職の倫理規定」 (p.192~199)、C-1 「看護の本質としての看護倫理」 (p.199~200)、C-2 「医療をめぐる倫理原則とケアの倫理」 (p.200~204)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 権利擁護〈アドボカシー〉	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 F 「看護実践における倫理的判断」 (p.120~128)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 4 章 B-5 「看護職の職業倫理」 (p.162~165)</p> <p>公衆衛生 : 第 2 章 B-2 「万国共通の看護職の公的責任」 (p.48~49)</p> <p>救急看護学 : 第 1 章 D-2 「倫理面への配慮」 (p.43~46)</p> <p>看護倫理 : 第 7 章 「専門職の倫理」 (p.110~125)</p> <p>看護情報学 : 第 6 章 B-3 「看護倫理」 (p.140~142)</p> <p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 C-1 「看護の本質としての看護倫理」 (p.199~200)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第 8 章 E-3 「アドボカシー」 (p.238~239)</p> <p>救急看護学 : 第 1 章 D-2-2 「アドボカシー」 (p.44~45)</p> <p>看護倫理 : 第 6 章 D 「看護実践上の倫理的概念」 (p.94~102)</p>
		d エンパワメント	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 C-1 「看護の本質としての看護倫理」 (p.199~200)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 7 章 C-3 「エンパワメント」 (p.218~219)</p> <p>公衆衛生 : 第 7 章 B-6 「健康教育」 (p.186~189)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第 8 章 E-2 「エンパワメント」 (p.237~238)</p>
5 看護に関わる基本的法律	A 保健師助産師看護師法	a 保健師助産師看護師の定義	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 1 章 A-3-1 「保健師助産師看護師法における定義」 (p.10~11)</p> <p>看護関係法令 : 第 2 章 A-2 「定義」 (p.21~22)</p>
		b 保健師助産師看護師の業務	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 4 章 B-1-3 「業務」 (p.151~152)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 4 章 B-1 「看護職の定義」 (p.153~154)</p> <p>看護関係法令 : 第 2 章 A-5 「業務」 (p.27~30)</p>
		c 保健師助産師看護師の義務(守秘義務、業務従事者届出の義務、臨床研修等を受ける努力義務)	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 4 章 B-1 「保健師助産師看護師法」 (p.149~152)</p> <p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 3 章 D-2 「記載・管理における留意点」 (p.258~260)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 G-3 「守秘義務」 (p.133)</p> <p>看護関係法令 : 第 2 章 A-5 「業務」 (p.27~30)、A-7 「義務」 (p.30~34)</p>
		d 養成制度	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 4 章 B-3 「看護職の養成制度」 (p.152~157)</p>
	B 看護師等の人材確保の促進に関する法律	a 基本方針	<p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 4 章 B-3-2 「看護師等の人材確保の促進に関する法律」 (p.157~158)</p> <p>看護関係法令 : 第 2 章 B 「看護師等の人材確保の促進に関する法律」 (p.47~50)</p>
		b ナースセンター	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 4 章 B-3 「看護職の養成制度」 (p.152~157)、C-2 「看護職の就業状況」 (p.158~160)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 D-3 「労働環境」 (p.110~118)</p> <p>看護関係法令 : 第 2 章 B 「看護師等の人材確保の促進に関する法律」 (p.50)</p>

目標Ⅱ. 看護の対象および看護活動の場と看護の機能について基本的な知識を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
6 人間の特性	A 人間と欲求	a 基本的欲求	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-3-1 「看護の理論家による看護の定義」(p.13~25)、第2章 A-5-1 「人間のニード(欲求)に関する理論: マズローの欲求段階説」(p.77) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A-b 「健康上のニーズ」(p.3~4)
		b 社会的欲求	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-3-1 「看護の理論家による看護の定義」(p.13~25)、第2章 A-5-1 「人間のニード(欲求)に関する理論: マズローの欲求段階説」(p.77) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A-b 「健康上のニーズ」(p.3~4)
	B 対象の特性	a QOL	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-5 「健康・生活とQOL」(p.135) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-3-2 「クオリティオブライフ(QOL)」(p.59~60) 総合医療論 : 第1章 B-5 「QOL(生活の質)について考える」(p.23) 社会学 : 第5章 B-4 「健康とクオリティオブライフ(QOL)」(p.79~80)
		b ニーズ	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 C 「人間の「暮らし」の理解」(p.86~91)
		c 健康や疾病に対する意識	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 B 「健康のとらえ方」(p.94~102) 総合医療論 : 第1章 B 「健康とは」(p.19~23)、C 「病の体験」(p.24~27) 社会学 : 第5章 A 「健康・病気の見方・とらえ方のうつりかわり」(p.74~76)、B 「健康・病気の新しい見方ととらえ方」(p.76~84)
		d 疾病・障害の受容	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 A-5-2 「危機理論」(p.77~79) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第8章 A-2 「障害がある人の障害の認識過程」(p.225~227) 成人看護学 [7] (脳・神経) : 第1章 B-2 「心理・社会的な問題とその援助」(p.15~18) 社会学 : 第5章 A 「健康・病気の見方・とらえ方のうつりかわり」(p.74~76)、B 「健康・病気の新しい見方ととらえ方」(p.76~84) リハビリテーション看護 : 第2章 B-2 「障害者の体験」(p.47~57)、C-3-3 「障害受容に対する援助」(p.73~75)
7 人間のライフサイクル各期の特徴と生活	A 胎児期	a 形態的発達と異常	小児看護学 [2] (小児臨床看護各論) : 第1章 B 「おもな疾患」(p.5~10) 母性看護学 [2] (母性看護学各論) : 第3章 A-2 「胎児の発育とその生理」(p.64~72)、第5章 B-1 「新生児の診断」(p.270~283) 解剖生理学 : 第10章 C 「受精と胎児の発生」(p.496~512) 病理学 : 第8章 「先天異常と遺伝子異常」(p.116~134) 病態生理学 : 第1章 F 「先天異常と遺伝子異常」(p.21~24)
	B 新生児・乳児期	a 発達の原則	小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第2章 「小児の成長・発達」(p.30~50)
		b 身体の発育	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 B-1 「身体的発育」(p.80~81) 小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第4章 A-1 「形態的特徴」(p.68)、B-1 「形態的特徴」(p.85~86)
		c 運動能力の発達	小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第4章 B-4 「運動機能」(p.88~89)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d 栄養	小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第3章 D-1「乳児期の栄養」(p.56~64) 栄養学 : 第8章 A「乳児期における栄養」(p.153~154) 栄養食事療法 : 第15章「小児の栄養食事療法」(p.218~229)
		e 親子関係	小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第4章 A-4-5「愛着形成」(p.84~85)、B-7-1「愛着形成」(p.92) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第3章 C「母性の発達・成熟・継承」(p.134~144) 母性看護学 [2] (母性看護学各論) : 第6章 C-2「児との関係確立への看護」(p.341~342) 精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第4章 A-4「家族のなかの役割関係」(p.111~114)、A-5「システムとしての家族」(p.114~122)
	C 幼児期	a 身体の発育	小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第5章 A-1「形態的特徴」(p.100)
		b 運動能力の発達	小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第5章 A-4「運動機能」(p.101)
		c 言語の発達	小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第5章 A-6「コミュニケーション機能」(p.103~104)
		d 社会性の発達	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 B-2「心理・社会的側面における発達」(p.81~86) 小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第5章 A-7「情緒・社会的機能」(p.104~108)
		e 基本的生活習慣の確立	小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第5章 A-8-1「日常生活の自立と世話」(p.108~113) 栄養学 : 第8章 B-1「幼児期の特徴と栄養摂取の要点」(p.153~154) 栄養食事療法 : 第15章 A「小児の栄養管理の基本」(p.219~221)
	D 学童期	a 運動能力の発達、体力の特徴	小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第5章 B-3「感覚・運動機能」(p.118~119) 栄養学 : 第8章 C「学童期における栄養」(p.154~159)
		b 社会性の発達	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 B-2「心理・社会的側面における発達」(p.81~86) 小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第5章 B-5「社会的機能」(p.120~122)
		c 学習に基づく行動	小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第5章 B-8「学童の養育および看護」(p.124~129)
	E 思春期	a 第二次性徴	成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 A-2-1「青年期：大人になること」(p.9~17) 小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第6章 2「身体生理の特徴」(p.133~135) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第5章 B-1-1「身体的特徴」(p.185~187) 解剖生理学 : 第10章 D-1-3「思春期における性成熟」(p.514~516)
		b アイデンティティの確立	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 B-2「心理・社会的側面における発達」(p.81~84) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 A-2-1「青年期：大人になること」(p.9~17) 小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第6章 3-3「自我発達」(p.136~137) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第5章 B-1-2「心理・社会的特徴」(p.188~192) 精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第3章 B-2「ライフサイクルとアイデンティティ」(p.73~78)
		c 親からの自立	成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 A-2-1「青年期：大人になること」(p.9~17)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d 異性への関心	<p>小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第 6 章 3-4 「社会性の発達」 (p.137~138)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 5 章 B-1-2 「心理・社会的特徴」 (p.188~192)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 A-2-1 「青年期 : 大人になること」 (p.9~17)</p> <p>小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第 6 章 3-4 「社会性の発達」 (p.137~138)、3-5 「性的傾向」 (p.138~139)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 5 章 B-1-2 「心理・社会的特徴」 (p.188~192)</p>
	F 成人期	a 社会的責任と役割	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 2 章 B-2-2 「成人期の発達」 (p.84~85)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 A-2-2 「壮年期・中年期 : 大人であること」 (p.17~26)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 5 章 C-1-2 「心理・社会的特徴」 (p.206~211)</p>
		b 生殖機能の成熟と衰退	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 A-2-2 「壮年期・中年期 : 大人であること」 (p.17~26)、A-2-3 「向老期 : 熟年から人生の有終へ——老年期への移行」 (p.26~27)</p> <p>成人看護学 [9] (女性生殖器) : 第 2 章 B 「女性生殖器の機能」 (p.26~36)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 6 章 D-1-1 「身体的特徴」 (p.218~220)</p>
		c 基礎代謝の変化	<p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第 3 章 B-2-7 「大人になるということ」 (p.78)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 A-2-2 「壮年期・中年期 : 大人であること」 (p.17~26)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 6 章 D-1-1 「身体的特徴」 (p.218~220)</p> <p>栄養学 : 第 4 章 D 「エネルギー消費」 (p.80~88)</p>
	G 老年期	a 身体的機能の変化	<p>老年看護学 : 第 1 章 B-2 「身体的側面の変化」 (p.8~11)</p> <p>老年看護 病態・疾患論 : 第 1 章 「高齢者の生理的特徴」 (p.32~36)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 6 章 E-1-1 「身体的特徴」 (p.233~237)</p>
		b 認知能力の変化	<p>老年看護学 : 第 1 章 B-3 「心理的側面の変化」 (p.11~12)</p> <p>老年看護 病態・疾患論 : 第 1 章 B 「認知・知覚機能の老化」 (p.20~26)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 6 章 E-1-1 「身体的特徴」 (p.233~237)</p>
		c 心理社会的変化	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 2 章 B-2-3 「老年期の発達」 (p.85~86)</p> <p>老年看護学 : 第 1 章 B-3 「心理的側面の変化」 (p.11~12)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 6 章 E-1-2 「心理・社会的特徴」 (p.237~239)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第 2 章 B-2-8 「新たな老年期の課題」 (p.78)</p>
8 看護の対象としての患者と家族	A 家族の機能	a 家族関係	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 2 章 C-2-1 「看護の対象としての家族」 (p.88~90)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 B-3 「家族からとらえる大人」 (p.34~35)、第 3 章 H 「家族支援」 (p.136~140)</p> <p>小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第 7 章 「家族の特徴とアセスメント」 (p.154~166)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 家族構成員	<p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第3章 B-2「家族の発達段階と家族看護」(p.130~134)</p> <p>在宅看護論 : 第2章 C-2「家族のとらえ方と看護師のかかわり」(p.41~45)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第2章 A-3「家族・個人の変化」(p.37~39)</p> <p>人間関係論 : 第9章 A「家族関係論と看護ケアの視点」(p.186~199)</p> <p>家族論・家族関係論 : 第5章「患者家族と在宅ケア」(p.138~166)</p> <p>救急看護学 : 第2章「救急患者家族の特徴」(p.57~61)</p> <p>リハビリテーション看護 : 第2章 B-3「家族の体験」(p.58~60)、C-3-6「家族援助」(p.81~83)</p> <p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-7「家族」(p.116~118)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 B-3「家族からとらえる大人」(p.34~35)、第3章 H「家族支援」(p.136~140)</p> <p>小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第7章「家族の特徴とアセスメント」(p.154~166)</p> <p>在宅看護論 : 第2章 C-2「家族のとらえ方と看護師のかかわり」(p.41~45)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第2章 A-3「家族・個人の変化」(p.37~39)</p> <p>家族論・家族関係論 : 第1章 B「家族の種類」(p.4)</p>
		c 疾病が患者・家族に与える心理・社会的影響	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 C-2-1「看護の対象としての家族」(p.88~90)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 H「家族支援」(p.136~140)</p> <p>小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第7章「家族の特徴とアセスメント」(p.154~166)</p> <p>在宅看護論 : 第2章 C「家族」(p.39~50)</p> <p>家族論・家族関係論 : 第5章「患者家族と在宅ケア」(p.138~166)</p> <p>救急看護学 : 第2章「救急患者家族の特徴」(p.57~61)</p> <p>リハビリテーション看護 : 第2章 B-3「家族の体験」(p.58~60)、C-3-6「家族援助」(p.81~83)</p>
	B 家族形態の変化	a 家族の多様性	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 C-2-1「看護の対象としての家族」(p.88~90)</p> <p>小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第7章 B-3-e「さまざまな状況の家族」(p.163~166)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第2章 A-3「家族・個人の変化」(p.37~39)</p> <p>人間関係論 : 第9章 A-1「家族機能と現代家族の動向」(p.187~190)</p> <p>家族論・家族関係論 : 第1章「家族とは」(p.2~20)</p>
		b 構成員の変化	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-7「家族」(p.116~118)</p> <p>公衆衛生 : 第7章 B「成人保健」(p.172~175)、B-7「家族のライフステージに応じた健康課題と健康づくり」(p.189~191)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第2章 A-3「家族・個人の変化」(p.37~39)</p> <p>人間関係論 : 第9章 A-1「家族機能と現代家族の動向」(p.187~190)</p> <p>家族論・家族関係論 : 第1章「家族とは」(p.2~20)</p>
9 主な看護活動の場と看護の機能	A 看護活動の場と機能	a 病院	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第6章 B-2-1「医療施設における看護」(p.217~222)</p> <p>総合医療論 : 第3章 A-2「診療所と病院」(p.60~65)</p> <p>看護関係法令 : 第3章 A-1「医療法」(p.52~74)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 診療所	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-1 「医療施設における看護」 (p.217~222) 総合医療論 : 第 3 章 A-2 「診療所と病院」 (p.60~65) 看護関係法令 : 第 3 章 A-1 「医療法」 (p.52~74)
		c 助産所	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-1 「医療施設における看護」 (p.217~222) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 2 章 A-5-1 「母性看護の場」 (p.83~85) 看護関係法令 : 第 3 章 A-1 「医療法」 (p.52~74)
		d 訪問看護ステーション	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-2 「地域における看護」 (p.222~229) 在宅看護論 : 第 4 章 A 「訪問看護制度の創設と発展経緯」 (p.76~78)
		e 介護保険施設	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-1 「医療施設における看護」 (p.217~222) 老年看護学 : 第 2 章 B-2-2 「介護保険制度の整備」 (p.39~48) 社会保障・社会福祉 : 第 4 章 B-5-8 「指定居宅サービス事業者と介護保険施設」 (p.100~102) 看護関係法令 : 第 7 章 A-4 「介護保険法」 (p.199~206)
		f 地域包括支援センター	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-2 「地域における看護」 (p.222~229) 老年看護学 : 第 2 章 B-2-2 「介護保険制度の整備」 (p.39~48) 看護関係法令 : 第 7 章 A-4-6 「地域支援事業」 (p.205)
		g 市町村	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-2 「地域における看護」 (p.222~229) 公衆衛生 : 第 3 章 B-3-2 「市町村保健センター」 (p.73~74) 看護関係法令 : 第 4 章 A-1-4 「市町村保健センター」 (p.122)
		h 保健所	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-2 「地域における看護」 (p.222~229) 公衆衛生 : 第 3 章 B-3-1 「保健所」 (p.72~73) 看護関係法令 : 第 4 章 A-1-3 「保健所」 (p.121~122)
		i 学校	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 2 章 C-2-2 「看護の対象としての集団・地域」 (p.90~91)、第 6 章 B-2-2 「地域における看護」 (p.222~229) 公衆衛生 : 第 8 章 A-1-2 「学校保健の対象」 (p.280)
		j 企業	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 2 章 C-2-2 「看護の対象としての集団・地域」 (p.90~91)、第 6 章 B-2-2 「地域における看護」 (p.222~229) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 4 章 B-2 「職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護」 (p.157~160) 公衆衛生 : 第 9 章 B-1 「産業保健師・看護師の役割」 (p.316~317)
	B 看護の機能と役割	a 訪問看護	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-2 「地域における看護」 (p.222~229) 在宅看護論 : 第 3 章 A-2 「訪問看護」 (p.53~54)
		b チーム医療	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 1 章 C-4 「多職種チームとしての情報共有と継続的かかわり」 (p.56~59)、第 6 章 B-1 「看護サービスの担い手とチーム医療」 (p.215~217) 総合医療論 : 第 7 章 B-4 「チーム医療・チームケア」 (p.173~175) 人間関係論 : 第 6 章 A 「保健医療チームの特質」 (p.124~128)
		c 退院調整	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-3 「継続看護」 (p.229~232)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d 入院のオリエンテーション(入院相談) e 地域医療連携  f 家族との調整	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 13 章 C 「退院支援の具体的方法」 (p.366~389)</p> <p>在宅看護論 : 第 3 章 B-2 「退院支援・退院調整」 (p.57~64)</p> <p>基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第 1 章 C-3-3 「病院・施設における看護の役割と機能」 (p.49~51)</p> <p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-3 「継続看護」 (p.229~232)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 13 章 B-1 「医療提供体制・諸制度の変化」 (p.360~362)</p> <p>在宅看護論 : 第 1 章 B-2 「対象者のケアニーズに応じた在宅看護の提供」 (p.20~23)</p> <p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 1 章 B-2-3 「看護の質保証に欠かせない要件」 (p.37~41)、第 2 章 C-2 「看護の対象としての家族」 (p.88~90)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 H 「家族支援」 (p.136~140)</p> <p>在宅看護論 : 第 2 章 C-4 「家族への支援」 (p.47~48)、第 3 章 B-1 「患者・家族の意思決定支援と調整」 (p.56~57)</p>

目標Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復について基本的な知識を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
10 人体の構造と機能	A 人体の基本的な構造と正常な機能	a 内部環境の恒常性  b 神経系  c 運動系  d 感覚器系  e 循環器系  f 血液、体液	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 2 章 A-2 「看護の使命と結びつくホメオスタシス」 (p.67~68)</p> <p>解剖生理学 : 第 1 章 C-3-2 「内部環境とホメオスタシス」 (p.50~52)、第 6 章 「内臓機能の調節」 (p.249~295)</p> <p>成人看護学 [7] (脳・神経) : 第 2 章 「脳・神経系の構造と機能」 (p.20~52)</p> <p>解剖生理学 : 第 1 章 B-5-4 「神経組織」 (p.34~36)、第 6 章 A 「自律神経による調節」 (p.252~260)、第 8 章 「情報の受容と処理」 (p.373~450)</p> <p>病態生理学 : 第 12 章 A 「脳・神経、筋肉の機能」 (p.236~239)</p> <p>成人看護学 [10] (運動器) : 第 2 章 「運動器の構造と機能」 (p.26~47)</p> <p>解剖生理学 : 第 7 章 「からだの支持と運動」 (p.297~372)</p> <p>病態生理学 : 第 12 章 I-1 「筋収縮のしくみ」 (p.261)</p> <p>成人看護学 [13] (眼) : 第 2 章 「眼の構造と機能」 (p.14~25)</p> <p>成人看護学 [14] (耳鼻咽喉) : 第 2 章 「耳鼻咽喉・頸部の構造と機能」 (p.22~43)</p> <p>解剖生理学 : 第 8 章 「情報の受容と処理」 (p.373~450)</p> <p>成人看護学 [3] (循環器) : 第 2 章 A 「心臓の構造と機能」 (p.16~23)、B 「血管の構造と機能」 (p.23~26)、C 「循環の調節」 (p.26~30)</p> <p>解剖生理学 : 第 4 章 「血液の循環とその調節」 (p.157~218)</p> <p>病理学 : 第 10 章 B 「心臓の疾患」 (p.174)</p> <p>病態生理学 : 第 6 章 A-1 「心臓の構造と機能」 (p.90~93)、B-1 「血圧と血圧調節」 (p.108~111)</p> <p>成人看護学 [4] (血液・造血器) : 第 2 章 「血液の生理と造血のしくみ」 (p.18~30)</p> <p>解剖生理学 : 第 1 章 C-3 「体液とホメオスタシス」 (p.48~52)、第 3 章 C 「血液」 (p.131~155)</p> <p>生化学 : 第 6 章 「水と無機質」 (p.72~79)、第 7 章 A 「血液」 (p.82~93)</p>



大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		g 免疫系	<p>病態生理学：第4章 A-1「体液と電解質の調整」(p.56～59)、第5章「血液のはたらきと病態生理」(p.72～88)</p> <p>成人看護学 [11] (アレルギー)：第2章 A「免疫反応と病気」(p.16～17)</p> <p>成人看護学 [11] (感染症)：第2章 B「感染が成立する条件」(p.212～218)</p> <p>解剖生理学：第9章 B「生体の防御機構」(p.458～470)</p> <p>病理学：第4章 B「免疫と免疫不全」(p.54～69)</p> <p>病態生理学：第1章 D「感染症」(p.14～18)、第3章 A「免疫のしくみ」(p.40～43)</p> <p>微生物学：第7章「感染に対する生体防御機構」(p.98～132)</p>
		h 呼吸器系	<p>成人看護学 [2] (呼吸器)：第2章「呼吸器系の構造と機能」(p.20～39)</p> <p>解剖生理学：第3章 A「呼吸器の構造」(p.99～110)、B「呼吸」(p.110～131)</p> <p>病態生理学：第7章 A「呼吸器の構造と機能」(p.120～125)</p>
		i 消化器系	<p>成人看護学 [5] (消化器)：第2章「消化器の構造と機能」(p.20～43)</p> <p>解剖生理学：第2章「栄養の消化と吸収」(p.53～96)</p> <p>病態生理学：第8章 A「消化管の構造と機能」(p.142～145)</p>
		j 栄養と代謝系	<p>成人看護学 [6] (内分泌・代謝)：第2章 C「代謝の概要と機能」(p.44～47)</p> <p>解剖生理学：第1章 B-2-2「エネルギーの変換とATP産生」(p.16～18)、第6章「内臓機能の調節」(p.250～295)</p> <p>生化学：第9章「代謝のあらまし」(p.124～130)</p> <p>病態生理学：第10章「内分泌・代謝のしくみと病態生理」(p.196～220)</p>
		k 泌尿器系	<p>成人看護学 [8] (腎・泌尿器)：第2章「腎・泌尿器の構造と機能」(p.18～38)</p> <p>解剖生理学：第5章「体液の調節と尿の生成」(p.219～248)</p> <p>病態生理学：第9章 A「腎臓の構造と機能」(p.176～179)</p>
		l 体温調節	解剖生理学：第9章 C「体温とその調節」(p.470～477)
		m 内分泌系	<p>成人看護学 [6] (内分泌・代謝)：第2章 A「内分泌器管の構造と機能」(p.16～25)、B「内分泌器管とホルモンの機能」(p.25～44)</p> <p>生化学：第8章「ホルモンと生理活性物質」(p.98～120)</p>
		n 性と生殖系	<p>成人看護学 [8] (腎・泌尿器)：第2章 E「男性生殖器の構造と機能」(p.35～39)</p> <p>成人看護学 [9] (女性生殖器)：第2章「女性生殖器の構造と機能」(p.20～36)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論)：第3章 A「女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化」(p.97～124)</p> <p>解剖生理学：第10章 A「男性生殖器」(p.481～486)、B「女性生殖器」(p.486～496)</p> <p>病態生理学：第11章 A-1「女性の生殖機能」(p.222～224)、B-1「男性の生殖機能」(p.231～232)</p>
		o 妊娠・分娩・産褥の経過	<p>成人看護学 [9] (女性生殖器)：第2章 B-5「妊娠の成立」(p.32～34)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論)：第3章 A-2-1「妊娠の成立」(p.110～117)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		p 遺伝	母性看護学 [2] (母性看護学各論) : 第3章 A 「妊娠期の身体的特性」 (p.58~77)、第4章 A 「分娩の要素」、B 「分娩の経過」 (p.178~205)、第5章 A 「産褥経過」 (p.308~320) 解剖生理学 : 第10章 C-1-1 「生殖細胞」 (p.496~500) 病理学 : 第8章 A 「遺伝の生物学」 (p.116~117)
	B 人間の死	a 死の三徴候	成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第9章 C-1-2 「死の判定」 (p.243~244) 病理学 : 第7章 C-1-1 「死の3徴候」 (p.111) 病態生理学 : 第1章 G-2 「死の定義」 (p.25~26) 救急看護学 : 第5章 O 「脳死状態への対応」 (p.276)
		b 死亡判定	成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第9章 C-1-2 「死の判定」 (p.243~244) 解剖生理学 : 第8章 D-5 「中枢神経系の障害」 (p.416~419) 病理学 : 第7章 C 「個体の死と終末期医療」 (p.110~114)
		c 脳死	病態生理学 : 第1章 G-2 「死の定義」 (p.25~26) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第9章 C-1-2 「死の判定」 (p.243~244) 成人看護学 [7] (脳・神経) : 第3章 B-1-4 「さまざまな意識障害と脳死」 (p.62~63) 病理学 : 第7章 C-2 「脳死と植物状態」 (p.112) 病態生理学 : 第1章 G-2 「死の定義」 (p.25~26) 総合医療論 : 第5章 C-2 「死の判定——脳死と臓器移植」 (p.120~122) 救急看護学 : 第5章 O 「脳死状態への対応」 (p.276~282)
		d 死の受容	クリティカルケア看護学 : 第6章 A-6 「臓器移植と脳死」 (p.212~213) 基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 A-5-2 「危機理論」 (p.77~79) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第9章 「人生の最期のときを支える看護」 (p.238~254) 病理学 : 第7章 C-3 「尊厳死と緩和医療」 (p.113~114) 救急看護学 : 第2章 B-2-4 「悲嘆反応」 (p.59~60) 緩和ケア : 第8章 A-2 「わるい知らせに対する心理的反応」 (p.200~201)、A-3 「死にゆく患者の心理」 (p.201~202)
11 疾患と徴候	A 主要な症状と徴候	a 意識障害	成人看護学 [7] (脳・神経) : 第3章 B-1 「意識障害」 (p.56~63)、第6章 B-1 「意識障害のある患者の看護」 (p.243~248) 小児看護学 [1] (小児臨床看護総論) : 第5章 7 「意識障害」 (p.361~368) 精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第5章 B-2-5 「意識の障害」 (p.159~162) 病態生理学 : 第12章 G-1 「意識障害」 (p.249~250) 救急看護学 : 第5章 B 「意識障害への対応」 (p.176~182)
		b ショック	クリティカルケア看護学 : 第3章 E-1-1 「意識障害」 (p.71) リハビリテーション看護 : 第4章 A-5-1 「意識障害」 (p.145~148) 成人看護学 [3] (循環器) : 第3章 H 「ショック」 (p.44~46) 成人看護学 [9] (女性生殖器) : 第3章 1 「ショック」 (p.38~39)、第6章 D-1 「ショック状態患者の看護」 (p.222~225) 小児看護学 [1] (小児臨床看護総論) : 第5章 6 「ショック」 (p.357~361)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 高体温、低体温	<p>病理学：第3章I「ショック」(p.42)          病態生理学：第6章B-2-a-2「ショック」(p.112~114)          臨床外科看護総論：第2章C-3「ショック」(p.71~74)          救急看護学：第5章D「ショック・循環障害への対応」(p.192~199)          クリティカルケア看護学：第3章D「循環障害とケア」(p.63~70)          成人看護学 [11] (感染症)：第2章D-7「発熱」(p.224)、第6章B-1「発熱」(p.352~353)          小児看護学 [1] (小児臨床看護総論)：第5章9「発熱」(p.374~379)          解剖生理学：第9章C-4「発熱」(p.474~476)、C-5「高体温と低体温」(p.476~477)          病態生理学：第2章B-3「高体温」(p.35~37)、B-4「低体温」(p.37~38)          救急看護学：第5章H「体温異常への対応」(p.224~229)          クリティカルケア看護学：第5章E「体温管理」(p.170~173)</p>
		d 脱水	<p>成人看護学 [8] (腎・泌尿器)：第3章D「脱水」(p.51~52)          老年看護学：第4章B-4「脱水」(p.125~129)          小児看護学 [1] (小児臨床看護総論)：第5章13「脱水」(p.387~394)          病態生理学：第4章A-2-a-1「脱水症」(p.59~62)          救急看護学：第5章G-1「脱水症とは」(p.217)          臨床薬理学：第4章B-1「脱水症状に対する輸液による補正」(p.238~243)</p>
		e 黄疸	<p>成人看護学 [5] (消化器)：第3章K「黄疸」(p.64~65)          小児看護学 [1] (小児臨床看護総論)：第5章18「黄疸」(p.407~409)          病理学：第6章D-4「黄疸」(p.102~103)          病態生理学：第8章E-5「ビリルビン代謝と黄疸」(p.167~168)          臨床外科看護各論：第3章I-D-2「黄疸」(p.251~252)          救急看護学：第4章H-2-7「黄疸・貧血」(p.141)</p>
		f 頭痛	<p>成人看護学 [7] (脳・神経)：第3章B-8「頭痛」(p.86~88)          病態生理学：第12章E「頭痛」(p.247~248)          救急看護学：第4章D-NOTE「頭痛」(p.117)          クリティカルケア看護学：第3章E-1-5「頭痛」(p.74)          臨床薬理学：第2章A「解熱鎮痛薬」(p.38~46)</p>
		g 咳嗽、喀痰	<p>成人看護学 [2] (呼吸器)：第3章A-1「喀痰」(p.42~44)、A-3「咳嗽」(p.46~49)          病態生理学：第7章C-1「咳嗽と喀痰」(p.127)          救急看護学：第4章E-2-4「咳と痰」(p.128)          緩和ケア：第7章B-10「咳嗽」(p.170~172)          臨床薬理学：第2章E「鎮咳・去痰薬」(p.60~64)</p>
		h 吐血、咯血	<p>成人看護学 [2] (呼吸器)：第3章A-2「血痰・咯血」(p.44~46)          成人看護学 [5] (消化器)：第3章E「吐血・下血」(p.53~55)          病態生理学：第8章D-5「吐血・咯血」(p.156~157)</p>
		i チアノーゼ	<p>成人看護学 [2] (呼吸器)：第3章B-1「チアノーゼ」(p.57~58)          成人看護学 [3] (循環器)：第3章E「チアノーゼ」(p.39~40)          小児看護学 [1] (小児臨床看護総論)：第5章5「チアノーゼ」(p.354~357)          病理学：第3章C-2-2「うっ血による変化」(p.31)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		j 呼吸困難	<p>病態生理学：第6章 B-b「チアノーゼ」(p.117～118)  救急看護学：第5章 E-1-4「急性腹症の症状」(p.200～202)  成人看護学 [2] (呼吸器)：第3章 A-5「呼吸困難」(p.53～56)  成人看護学 [3] (循環器)：第3章 C「呼吸困難」(p.35～37)  小児看護学 [1] (小児臨床看護総論)：第5章 4「呼吸困難」(p.351～354)  病態生理学：第7章 B-1「呼吸困難」(p.125)  救急看護学：第5章 C「呼吸障害への対応」(p.183～192)  クリティカルケア看護学：第3章 C-1「呼吸不全」(p.56)  緩和ケア：第7章 B-9「呼吸困難」(p.167～170)</p>
		k 胸痛	<p>成人看護学 [2] (呼吸器)：第3章 A-4「胸痛」(p.49～53)  成人看護学 [3] (循環器)：第3章 A「胸痛」(p.32～33)  病態生理学：第6章 A-2-NOTE「胸痛」(p.94)  救急看護学：第4章 F-2-4「胸部症状」(p.134)  成人看護学 [3] (循環器)：第5章 D「不整脈」(p.171～198)  病態生理学：第6章 A-2-b「心筋収縮の指令の障害」(p.97～100)</p>
		l 不整脈	
		m 腹痛、腹部膨満	<p>救急看護学：第4章 F「循環器系」(p.129～135)  成人看護学 [5] (消化器)：第3章 D「腹痛」(p.51～53)、H「腹部膨満」(p.58～61)  病態生理学：第8章 D-1-1「腹痛」(p.151～152)  救急看護学：第4章 G「消化器系」(p.135～141)、第5章 E「急性腹症への対応」(p.199～206)  成人看護学 [5] (消化器)：第3章 C「吐きけ・嘔吐」(p.49～50)  小児看護学 [1] (小児臨床看護総論)：第5章 10「嘔吐」(p.379～381)  病態生理学：第8章 D-4「嘔気(吐きけ)と嘔吐」(p.155～156)  救急看護学：第4章 G-2-3「吐きけ・嘔吐」(p.140)、第5章 E-1-4「急性腹症の症状」(p.200～202)  緩和ケア：第7章 B-4「悪心・嘔吐」(p.156～159)  臨床薬理学：第2章 B「制吐薬」(p.47～51)  成人看護学 [5] (消化器)：第3章 F「下痢」(p.55～56)  小児看護学 [1] (小児臨床看護総論)：第5章 11「下痢」(p.382～384)  栄養学：第9章 F-2-b-1「下痢」(p.210)  病態生理学：第8章 D-2「下痢」(p.153)  微生物学：第8章 A-1「食中毒」(p.134～136)  救急看護学：第4章 G-2-2「下痢・便秘」(p.140)、第5章 E-1-4「急性腹症の症状」(p.200～202)  緩和ケア：第7章 B-7「下痢」(p.163～164)  栄養食事療法：第6章 L「下痢」(p.93～95)  臨床薬理学：第2章 D「下痢治療薬」(p.57～59)</p>
		n 悪心、嘔吐	
		o 下痢	
		p 便秘	<p>成人看護学 [5] (消化器)：第3章 G「便秘」(p.56～58)  小児看護学 [1] (小児臨床看護総論)：第5章 12「便秘」(p.384～387)  栄養学：第9章 F-2-b-2「便秘」(p.210～211)  病態生理学：第8章 D-1-2「便秘」(p.152～153)  救急看護学：第4章 G-2-2「下痢・便秘」(p.140)  緩和ケア：第7章 B-6「便秘」(p.161～163)  栄養食事療法：第6章 K「便秘」(p.91～93)  臨床薬理学：第2章 C「便秘治療薬」(p.57～59)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		q 下血	成人看護学 [5] (消化器) : 第3章 E 「吐血・下血」 (p. 53~55) 病態生理学 : 第8章 D-5-2 「下血・血便」 (p.157) 救急看護学 : 第5章 E-1-4 「急性腹症の症状」 (p.200~202)
		r 乏尿、無尿、頻尿、多尿	成人看護学 [7] (脳・神経) : 第3章 B-5-3 「排泄障害」 (p.79~80) 成人看護学 [8] (腎・泌尿器) : 第3章 A-1 「尿量の異常」 (p.40~41)、B-1 「蓄尿症状」 (p.46~47) 病態生理学 : 第9章 C-1-3 「尿量と排泄回数の異常」 (p.191) 救急看護学 : 第5章 F-4 「尿閉とは」 (p.209) 緩和ケア : 第7章 B-13 「下部尿路機能障害」 (p.176~178)
		s 浮腫	成人看護学 [3] (循環器) : 第3章 D 「浮腫」 (p.37~39) 成人看護学 [8] (腎・泌尿器) : 第3章 C 「浮腫」 (p.49~51) 成人看護学 [9] (女性生殖器) : 第3章-10 「リンパ浮腫」 (p.45) 老年看護学 : 第4章 B-6 「浮腫」 (p.131~134) 小児看護学 [1] (小児臨床看護総論) : 第5章 14 「浮腫」 (p.394~397) 病理学 : 第3章 B 「浮腫(水腫)」 (p.29~30) 病態生理学 : 第1章 B-3 「浮腫と胸水・腹水」 (p.6~8) 救急看護学 : 第5章 G-4 「浮腫とは」 (p.219~220) 緩和ケア : 第7章 B-18 「リンパ浮腫」 (p.187~192)
		t 貧血	成人看護学 [4] (血液・造血器) : 第3章 A-1 「貧血」 (p.33)、C-1 「貧血」 (p.39~41)、第5章 A-1 「貧血のある患者の看護」 (p.137~141) 小児看護学 [1] (小児臨床看護総論) : 第5章 16 「貧血」 (p.401~404) 栄養学 : 第9章 F-5-1 「鉄欠乏性貧血」 (p.227)、F-5-2 「巨赤芽球性貧血」 (p.227~228) 病理学 : 第11章 A-2 「貧血」 (p.190~191) 病態生理学 : 第5章 B-2-1 「貧血とは」 (p.75~79) 栄養食事療法 : 第9章 A 「鉄欠乏性貧血」 (p.148~152)、B 「巨赤芽球性貧血」 (p.152~154) 基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 B 「睡眠・休息の援助」 (p.127~136) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第5章 F-2 「睡眠時無呼吸症候群」 (p.196~197) 成人看護学 [3] (循環器) : 第5章 C-2-Column 「閉塞性睡眠時無呼吸症候群」 (p.167) 精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第5章 C-5-2 「睡眠障害(精神的要因によるもの)」 (p.204~207) 病態生理学 : 第12章 F 「睡眠障害」 (p.248~249) 緩和ケア : 第8章 B-4 「不眠」 (p.226~233) 臨床薬理学 : 第2章 G 「睡眠薬」 (p.73~77)
		u 睡眠障害	成人看護学 [7] (脳・神経) : 第3章 B-4 「感覚機能障害」 (p.74~76) 成人看護学 [14] (耳鼻咽喉) : 第3章 A-1 「難聴」 (p.47~48)、B-3 「嗅覚障害」 (p.51~52) 精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第5章 B-2-4 「知覚の障害——幻覚を中心に」 (p.158~159) 病態生理学 : 第13章 D 「皮膚感覚とその異常」 (p.276~278)
		v 感覚過敏・鈍麻	成人看護学 [7] (脳・神経) : 第3章 B-3 「運動機能障害」 (p.68~74) 成人看護学 [10] (運動器) : 第3章 D 「神経の障害」 (p.61~63)
		w 運動麻痺	

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		x けいれん  y 気分〈感情〉障害	<p>病態生理学：第12章 H-2 「運動失調」(p.255)、H-6-2 「運動麻痺」(p.259)</p> <p>救急看護学：第5章 D-1 「脳・神経系の観察とアセスメント」(p.114~121)</p> <p>クリティカルケア看護学：第3章 E-1-3 「運動麻痺」(p.73)</p> <p>リハビリテーション看護：第3章 B-4 「障害とリハビリテーション看護」(p.96~115)、第4章 A-5-2 「運動障害」(p.148~164)、B-5-1 「運動障害」(p.201~218)、C-5-1 「運動麻痺」(p.231~244)</p> <p>成人看護学 [7] (脳・神経)：第3章 B-3-4 「けいれん」(p.73~74)、第5章 H 「てんかん」(p.212~217)</p> <p>小児看護学 [1] (小児臨床看護総論)：第5章 8 「けいれん」(p.368~374)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第5章 C-9 「てんかん」(p.225~227)</p> <p>病態生理学：第12章 H-1 「けいれん」(p.256~257)</p> <p>救急看護学：第4章 D-1-2-NOTE 「けいれん」(p.120)</p> <p>クリティカルケア看護学：第3章 E-1-3 「けいれん」(p.72)</p> <p>臨床薬理学：第4章 D-4 「抗けいれん薬の臨時投与」(p.273~276)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第5章 C-3 「気分〔感情〕障害〔双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群〕」(p.183~192)</p> <p>臨床薬理学：第4章 D-3 「抗不安薬」(p.269~272)</p>
	B 主要な疾患による健康障害と基本的な回復過程	a 生活習慣病	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 A-2-3 「生活習慣病」(p.51~53)、第5章 C 「生活行動がもたらす健康問題とその予防」(p.169~180)</p> <p>成人看護学 [3] (循環器)：第5章 A 「虚血性心疾患」(p.120~149)、C 「血圧異常」(p.161~171)、第6章 E-3 「血圧異常患者の看護」(p.328~330)</p> <p>成人看護学 [6] (内分泌・代謝)：第5章 B-1 「糖尿病」(p.132~164)、B-2 「脂質異常症」(p.165~174)、B-3 「肥満症とメタボリックシンドローム」(p.175~180)、B-4 「尿酸代謝異常」(p.180~184)、第6章 B-1 「糖尿病患者の看護」(p.236~271)、B-2 「脂質異常症患者の看護」(p.271~275)、B-3 「肥満症患者の看護」(p.275~278)、B-5 「尿酸代謝異常患者の看護」(p.281~282)</p> <p>生化学：第17章 B 「糖尿病」(p.254~257)、C 「脂質異常症」(p.258~260)</p> <p>栄養学：第9章 F 「高血圧症」(p.204~205)、「虚血性心疾患」(p.206)、「脳血管障害」(p.207~208)、「メタボリックシンドローム」(p.216)、「糖尿病」(p.218~220)、第10章 B 「生活習慣病の予防」(p.247~248)</p> <p>病理学：第3章 J 「高血圧症」(p.44~46)、第6章 A 「脂質代謝障害」(p.94~97)、C 「糖尿病」(p.98~100)、第10章 B-5 「虚血性心疾患」(p.176~182)、第16章 A-2 「脳・神経系の循環障害(脳血管障害)」(p.288~293)</p> <p>病態生理学：第6章 B-b 「血圧の上昇による病態」(p.114)、第10章 B-2 「糖代謝の異常」(p.210~214)、C-2 「脂質異常症」(p.216~217)、第12章 B-2 「脳血管障害」(p.240~242)</p> <p>公衆衛生：第7章 B-4 「生活習慣病対策」(p.181~184)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b がん	<p>栄養食事療法：第1章 A-3-1「生活習慣病」(p.4~5)、第5章「循環器疾患患者の栄養食事療法」(p.58~70)、第8章 A「肥満」(p.130~133)、D「糖尿病」(p.138~141)、E「脂質異常症」(p.141~144)、F「高尿酸血症・通風」(p.144~146)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 B-1-2「保健にかかわる対策——健やかな生活をはぐくむために」(p.63~72)、第14章「がんとの共生を促す看護技術」(p.392~402)</p> <p>病理学：第9章「腫瘍」(p.136~166)</p> <p>病態生理学：第1章 E「腫瘍」(p.18~21)</p> <p>公衆衛生：第7章 B-5「がん対策」(p.184~186)</p> <p>看護関係法令：第4章 B-5「がん対策基本法」(p.136~137)</p> <p>臨床外科看護総論：第2章 B「腫瘍」(p.55~63)</p> <p>がん看護学：第5章「がん治療に対する看護」(p.202~278)</p> <p>リハビリテーション看護：第5章 NOTE「がんリハビリテーション」(p.300~301)</p>
		c 感染症	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第5章 C-7「感染症」(p.178~180)</p> <p>成人看護学 [2] (呼吸器)：第5章 A「感染症」(p.138~164)</p> <p>成人看護学 [5] (消化器)：第5章 C-2-1「感染性腸炎」(p.175~176)、D-1「肝炎」(p.209~228)</p> <p>成人看護学 [7] (脳・神経)：第5章 F「脳・神経系の感染症」(p.198~207)</p> <p>成人看護学 [9] (女性生殖器)：第5章 D「感染症」(p.198~202)</p> <p>成人看護学 [11] (感染症)：第5章「疾患の理解」(p.268~320)、第6章「患者の看護」(p.322~367)</p> <p>成人看護学 [12] (皮膚)：第5章 F「感染症」(p.133~151)</p> <p>小児看護学 [2] (小児臨床看護各論)：第6章「感染症と看護」(p.138~171)</p> <p>病理学：第5章「感染症」(p.76~92)</p> <p>病態生理学：第1章 D「感染症」(p.14~17)、第7章 C-2「呼吸器感染症」(p.127~130)</p> <p>微生物学：第3部「おもな病原微生物」(p.213~360)</p> <p>公衆衛生：第7章 G「感染症対策」(p.250~271)</p> <p>クリティカルケア看護学：第3章 H「重症感染症とケア」(p.93~98)</p>
		d 精神疾患	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 A-2-5「心の病」(p.56~57)</p> <p>老年看護学：第6章 C-1「うつ」(p.292~297)</p> <p>小児看護学 [2] (小児臨床看護各論)：第18章「精神疾患と看護」(p.482~513)</p> <p>母性看護学 [2] (母性看護学各論)：第7章 V「精神障害合併妊婦と家族の看護」(p.503~510)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第5章 C「精神障害の診断と分類」(p.164~232)</p> <p>精神保健福祉：第4章「精神保健福祉活動の展開に必要な知識と技術」(p.66~120)、第5章「地域移行支援・地域生活支援の基礎」(p.122~156)、第6章「地域移行支援の展開」(p.158~204)、第7章「地域生活支援の展開」(p.206~241)、第8章「特定の状況に対する精神保健福祉」(p.244~289)</p>
		e 小児の疾患	<p>小児看護学 [2] (小児臨床看護各論)：各章 B「おもな疾患」の項に収載</p>
		f 高齢者の疾患	<p>成人看護学 [7] (脳・神経)：第5章 I「認知症」(p.217~224)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			<p>成人看護学 [10] (運動器) : 第 5 章 H-6 「骨粗鬆症」 (p.175~177)</p> <p>老年看護 病態・疾患論 : 第 4 章 「高齢者の疾患の特徴」 (p.118~260)</p> <p>病理学 : 第 7 章 A 「個体の老化と老年症候群」 (p.106~107)、B 「加齢に伴う諸臓器の変化」 (p.107)</p> <p>精神保健福祉 : 第 6 章 B 「高齢精神障害者の地域移行支援の展開」 (p.173~186)、第 7 章 B-3 「高齢精神障害者・身体合併症のある患者の地域生活支援の展開」 (p.225~226)</p>
	C 基本的な臨床検査値の評価	<p>a 血液学検査</p> <p>b 血液生化学検査</p> <p>c 免疫血清学検査</p> <p>d 尿検査</p>	<p>臨床検査 : 第 4 章 「血液学的検査」 (p.88~116)</p> <p>臨床検査 : 第 5 章 「化学検査」 (p.118~167)</p> <p>臨床検査 : 第 6 章 「免疫・血清学検査」 (p.170~192)</p> <p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 11 章 B-2 「尿検査」 (p.382~385)</p> <p>臨床検査 : 第 3 章 A 「尿検査」 (p.63~77)</p>
12 薬物の作用とその管理	A 主な薬物の作用と副作用 (有害事象)	<p>a 抗感染症薬</p> <p>b 抗癌薬</p> <p>c 強心薬、抗不整脈薬</p> <p>d 狭心症治療薬</p> <p>e 抗血栓薬</p> <p>f 降圧薬、昇圧薬</p> <p>g 利尿薬</p>	<p>成人看護学 [11] (感染症) : 第 4 章 B 「抗菌薬」 (p.253~264)、C 「抗真菌薬」 (p.264)、D 「抗ウイルス薬」 (p.265)</p> <p>薬理学 : 第 1 章 「抗感染症薬」 (p.62~88)</p> <p>微生物学 : 第 11 章 B 「各種の化学療法薬」 (p.176~195)</p> <p>臨床薬理学 : 第 4 章 E 「感染徴候がある者に対する薬物の臨時投与」 (p.277~283)</p> <p>成人看護学 [4] (血液・造血器) : 第 4 章 C-4-1 「化学療法」 (p.73~76)</p> <p>薬理学 : 第 2 章 「抗がん薬」 (p.90~100)</p> <p>がん看護学 : 第 4 章 B 「薬物療法」 (p.153~180)</p> <p>臨床薬理学 : 第 4 章 F-2-2 「抗がん薬の血管外漏出に伴う組織傷害」 (p.289~292)</p> <p>成人看護学 [3] (循環器) : 第 5 章 D-4-1 「抗不整脈薬」 (p.194~195)</p> <p>薬理学 : 第 7 章 C 「心不全治療薬」 (p.194~198)、D 「抗不整脈薬」 (p.198~203)</p> <p>救急看護学 : 第 7 章 B-3 「抗不整脈薬」 (p.348~350)</p> <p>臨床薬理学 : 第 3 章 C 「心不全」 (p.92~98)、D 「不整脈」 (p.99~104)、第 4 章 A-2 「持続点滴中のカテコールアミンの投与量の調整」 (p.214~219)</p> <p>成人看護学 [3] (循環器) : 第 5 章 A-1-3 「治療」 (p.127~128)</p> <p>薬理学 : 第 7 章 B 「狭心症治療薬」 (p.191~194)</p> <p>臨床薬理学 : 第 3 章 B 「急性冠症候群」 (p.86~91)</p> <p>薬理学 : 第 7 章 G-4 「抗血液凝固薬」 (p.213~216)、G-5 「血栓溶解薬および抗血小板薬」 (p.216~218)</p> <p>臨床薬理学 : 第 3 章 E 「抗血小板・抗凝固療法」 (p.105~110)</p> <p>成人看護学 [3] (循環器) : 第 5 章 C-2-2 「治療」 (p.166~167)</p> <p>薬理学 : 第 7 章 A 「抗高血圧薬」 (p.184~191)</p> <p>救急看護学 : 第 7 章 B-1 「昇圧薬」 (p.347)、B-2 「降圧・冠血管拡張薬」 (p.347~348)</p> <p>臨床薬理学 : 第 3 章 A 「高血圧症」 (p.80~85)、第 4 章 A-2 「持続点滴中のカテコールアミンの投与量の調整」 (p.214~219)、A-3 「持続点滴中の降圧薬の投与量の調整」 (p.226~230)</p> <p>薬理学 : 第 7 章 E 「利尿薬」 (p.203~206)</p> <p>救急看護学 : 第 7 章 B-8 「その他の救急医薬品 (気管支拡張薬、利尿薬、電解質製剤)」 (p.352~353)</p> <p>臨床薬理学 : 第 4 章 A-4 「持続点滴中の利尿薬の投与量の調整」 (p.226~230)</p>



大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		h 消化性潰瘍治療薬	成人看護学 [5] (消化器) : 第 4 章 C-1-3 「酸分泌を抑制する薬物」 (p.118~119) 薬理学 : 第 8 章 B-1 「消化性潰瘍治療薬」 (p.227~229) 臨床薬理学 : 第 3 章 H 「胃・十二指腸潰瘍」 (p.125~131)
		i 下剤	成人看護学 [5] (消化器) : 第 4 章 C-1-2 「下剤」 (p.117~118) 薬理学 : 第 8 章 B-4 「下剤と止痢薬」 (p.231~233) 臨床薬理学 : 第 2 章 C 「便秘治療薬」 (p.52~56)
		j 抗アレルギー薬	成人看護学 [11] (アレルギー) : 第 3 章 B-1-2 「抗アレルギー薬」 (p.32~33) 成人看護学 [12] (皮膚) : 第 4 章 C-1 「全身療法(内服・注射薬)」 (p.64~67)、第 6 章 E-1 「内服療法を受ける患者の看護」 (p.187~188) 薬理学 : 第 4 章 A-2 「抗アレルギー薬」 (p.227~229)
		k 副腎皮質ステロイド薬	成人看護学 [11] (膠原病) : 第 4 章 C-2-1 「副腎皮質ステロイド」 (p.117~118)、第 6 章 D-1-4 「薬物の種類と看護」 (p.162~165) 成人看護学 [12] (皮膚) : 第 4 章 C-1 「全身療法(内服・注射薬)」 (p.64~67)、C-2 「外用療法」 (p.67~69)、第 6 章 E-1 「内服療法を受ける患者の看護」 (p.187~188)、E-2 「外用療法を受ける患者の看護」 (p.188~197) 生化学 : 第 8 章 C-6 「副腎皮質ホルモン」 (p.112~115) 薬理学 : 第 4 章 B-2 「ステロイド性抗炎症薬」 (p.122~124) 救急看護学 : 第 7 章 B-7 「ステロイド薬」 (p.351~352) 臨床薬理学 : 第 4 章 F 「副腎ステロイド薬による治療」 (p.284~296)
		l 糖尿病治療薬	成人看護学 [6] (内分泌・代謝) : 第 5 章 B-1-4 「糖尿病の治療」 (p.137~147)、巻末資料 「糖尿病治療薬」 (p.308~313) 薬理学 : 第 9 章 A-1 「糖尿病治療薬」 (p.242~248) 臨床薬理学 : 第 3 章 M 「糖尿病」 (p.159~168)、第 4 章 C 「インスリンの投与量の調整」 (p.252~258)
		m 中枢神経作用薬	精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第 6 章 B-1 「薬物療法」 (p.239~255) 薬理学 : 第 6 章 「中枢神経系に作用する薬物」 (p.152~182) 臨床薬理学 : 第 4 章 D 「精神および神経症状にかかわる薬剤の投与と調整」 (p.259~279)
		n 麻薬	薬理学 : 第 6 章 H 「麻薬性鎮痛薬」 (p.176~181) 臨床薬理学 : 第 2 章 F 「鎮静薬」 (p.65~72)、第 4 章 G 「術後ならびに呼吸管理にかかわる薬物の投与と調整」 (p.297~309)
		o 消炎鎮痛薬	薬理学 : 第 4 章 B 「炎症と抗炎症薬」 (p.118~124) 臨床薬理学 : 第 2 章 A 「解熱鎮痛薬」 (p.38~46)
	B 薬物の管理	a 禁忌	看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 2 章 E-3-2 「患者にとって直接実害を及ぼす薬剤での間違いを防ぐ(禁忌薬に注意)」 (p.110) 薬理学 : 第 2 章 E-2 「薬物の副作用」 (p.48~51)、付録 ③ 「添付文書」 (p.318~321)
		b 保存方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 9 章 A-2-2 「薬物の管理」 (p.289~290) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 2 章 B-4 「注射事故防止のために求められる知識と技術」 (p.59)、E-2-3 「内服と薬特有の間違いの発生要因」 (p.107~109) 薬理学 : 第 2 章 F-1 「医薬品に関する法律」 (p.52~54)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 薬理効果に影響する要因	薬理学：第1章 B-2「薬物療法における看護師の役割」(p.9~13)、D「薬効の個人差に影響する因子」(p.41~46) 臨床薬理学：第1章 A-2「医薬品の体内動態と薬物相互作用」(p.12~17)

目標Ⅳ. 看護技術に関する基本的な知識を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
13 看護における基本技術	A コミュニケーション	a 言語的コミュニケーション	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第1章 B「コミュニケーションの構成要素と成立過程」(p.22~28) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章 B「健康問題を持つ大人と看護師の人間関係」(p.94~100) 成人看護学 [7] (脳・神経)：第6章 A-2「言語障害のある患者の看護」(p.248~252) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第6章「医療安全とコミュニケーション」(p.204~213) 人間関係論：第3章「コミュニケーション」(p.50~69) クリティカルケア看護学：第5章 F「コミュニケーション」(p.173~176) 緩和ケア：第4章 A「患者が納得して医療を受けるためのコミュニケーション」(p.54~60)
		b 非言語的コミュニケーション	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第1章 B「コミュニケーションの構成要素と成立過程」(p.22~28) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章 B「健康問題を持つ大人と看護師の人間関係」(p.94~100) 人間関係論：第3章「コミュニケーション」(p.50~69) クリティカルケア看護学：第5章 F「コミュニケーション」(p.173~176) 緩和ケア：第4章 A「患者が納得して医療を受けるためのコミュニケーション」(p.54~60)
		c 面接技法	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第2章 B-1「問診(面接)の技術」(p.64) 精神看護学 [2] (精神看護の展開)：第8章 C-3「話をすること、聞くこと」(p.19~25) 人間関係論：第4章 C-1「人間関係を築く面接技法」(p.92~97)
	B 看護過程	a 情報収集、アセスメント	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章 C-1「アセスメント(情報の収集と分析)」(p.226~239)
		b 計画立案	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章 C-3「看護計画」(p.247~252)
		c 実施	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章 C-4「実施」(p.252~254)
		d 評価	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章 C-5「評価」(p.254~256)
		e 記録方式	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章 D「看護記録」(p.256~262)
	C フィジカルアセスメント	a バイタルサインの測定	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第2章 C-3「バイタルサインの観察とアセスメント」(p.86~107) 救急看護学：第4章 A-2「全身状態の観察とアセスメント」(p.100~105)
		b 意識レベルの評価	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第2章 C-3「バイタルサインの観察とアセスメント」(p.86~107) 成人看護学 [7] (脳・神経)：第3章 B-1-2「意識障害の分類・評価」(p.57~60) 救急看護学：第4章 D-1「脳・神経系の観察とアセスメント」(p.114~117) クリティカルケア看護学：第2章 C-3-1「脳・神経系(意識)のアセスメント」(p.31~34)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 呼吸音聴取	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 2 章 D-2 「呼吸器系のフィジカルアセスメント」 (p.124~135) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第 3 章 B-4 「呼吸の異常」 (p.61~65) 救急看護学 : 第 4 章 E-1-3 「聴診」 (p.126) クリティカルケア看護学 : 第 2 章 C-1-1 「呼吸器系のアセスメント」 (p.26~27)
		d 腸蠕動音聴取	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 2 章 D-5 「腹部のフィジカルアセスメント」 (p.152~162) 成人看護学 [5] (消化器) : 第 4 章 A-2 「聴診」 (p.73~74) 救急看護学 : 第 4 章 G-1-3 「聴診」 (p.138)
		e 運動機能の観察	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 2 章 D-6 「筋・骨格系のフィジカルアセスメント」 (p.162~170) 救急看護学 : 第 4 章 D-1 「脳・神経系の観察とアセスメント」 (p.114~117) リハビリテーション看護 : 第 2 章 C-2-2 「日常生活活動(ADL)の評価」 (p.61~67)、第 3 章 B-4-2 「関節拘縮」 (p.103~104)、B-4-3 「筋萎縮」 (p.107~111)
14 日常生活援助技術	A 食事	a 食事の環境整備、食事介助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 2 章 B 「食事摂取の介助」 (p.35~39) 栄養学 : 第 1 章 C-1 「食事における看護師の役割」 (p.12~13) 栄養食事療法 : 第 16 章 A-4-2 「食事介助」 (p.236)
		b 誤嚥の予防	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 2 章 B 「食事介助」 (p.35~39)、C 「摂食・嚥下訓練」 (p.40~47) 成人看護学 [7] (脳・神経) : 第 6 章 A-9 「嚥下障害のある患者の看護」 (p.280~286) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 4 章 C 「誤嚥事故防止」 (p.168~174) リハビリテーション看護 : 第 4 章 A-5-4 「摂食・嚥下障害」 (p.168~175)、B-5-3 「摂食・嚥下障害」 (p.222~224) 栄養食事療法 : 第 3 章 F 「摂食・嚥下障害」 (p.40~43)
	B 排泄	a 床上排泄	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 3 章 A-2-2 「床上排泄援助」 (p.67~70)
		b 導尿	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 3 章 B 「導尿」 (p.73~80) 成人看護学 [7] (脳・神経) : 第 6 章 A-10 「排尿障害のある患者の看護」 (p.286~291) 成人看護学 [8] (腎・泌尿器) : 第 4 章 D 「排尿管理」 (p.100~103)、第 6 章 V-A-1 「導尿を受ける患者の看護」 (p.265~266) リハビリテーション看護 : 第 4 章 C-3 「排尿障害」 (p.245~248)
		c 浣腸	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 3 章 C-2 「浣腸(グリセリン浣腸)」 (p.81~85)
		d 排便	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 3 章 C-3 「排便」 (p.85~86)
		e 失禁のケア	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 3 章 A 「自然排尿および自然排便の介助」 (p.59~73) 成人看護学 [8] (腎・泌尿器) : 第 6 章 II-3-4 「尿失禁のある患者の看護」 (p.216~220) 臨床外科看護各論 : 第 3 章 II-C-3 「大腸の手術を受ける患者の看護」 (p.343~354)
	C 活動と休息	a 体位、体位変換	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 4 章 A-2 「体位」 (p.100~102)、A-3-1 「体位変換」 (p.103~112)
		b 運動	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 4 章 A 「基本的活動の援助」 (p.94~126)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 移動、移送	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 A-3 「移動(体位変換・歩行・移乗・移送)」(p.103~126)</p> <p>成人看護学 [10] (運動器) : 第6章 F-1-3 「応急固定法と運搬法」(p.263~264)</p> <p>在宅看護論 : 第5章 B-4 「移動・移乗に関する在宅看護技術」(p.160~170)</p>
		d ボディメカニクス	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 A-1-2 「ボディメカニクス」(p.97~100)</p> <p>成人看護学 [10] (運動器) : 第6章 A-2-2 「就床患者の体位と身体各部の相互位置関係」(p.194~197)</p>
		e 廃用症候群の予防	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 A 「基本的活動の援助」(p.94~126)</p> <p>成人看護学 [7] (脳・神経) : 第6章 B-4 「運動麻痺のある患者の看護」(p.258~266)、C-2-2 「リハビリテーションを受ける患者の看護」(p.316~320)</p> <p>成人看護学 [10] (運動器) : 第5章 K 「廃用症候群」(p.188)</p> <p>臨床外科看護総論 : 第11章 D-2-2 「廃用症候群」(p.389~391)</p> <p>リハビリテーション看護 : 第3章 B-3 「骨折のリハビリテーションプログラム」(p.94~96)、B-4-2 「関節拘縮」(p.102~106)、B-4-3 「筋萎縮」(p.106~115)、第4章 A-5-2 「運動障害」(p.148~164)、B-5-1 「運動障害」(p.201~218)</p>
		f 睡眠	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 B 「睡眠と休息の援助」(p.127~136)</p>
	D 清潔	a 入浴	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 A-2-1 「入浴・シャワー浴」(p.159~164)</p> <p>在宅看護論 : 第6章 B-5 「清潔に関する在宅看護技術」(p.210~216)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第4章 E 「入浴中の事故防止」(p.178~183)</p> <p>リハビリテーション看護 : 第4章 A-5-2 「運動障害」(p.163~165)</p>
		b 清拭	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 A-2-2 「全身清拭」(p.164~170)</p> <p>在宅看護論 : 第6章 B-5 「清潔に関する在宅看護技術」(p.210~216)</p>
		c 口腔ケア	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 A-2-8 「口腔ケア」(p.195~202)</p> <p>成人看護学 [15] (歯・口腔) : 特論 「口腔ケア」(p.256~274)</p> <p>在宅看護論 : 第6章 B-5 「清潔に関する在宅看護技術」(p.210~216)</p>
		d 洗髪	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 A-2-3 「洗髪」(p.170~179)</p> <p>在宅看護論 : 第6章 B-5 「清潔に関する在宅看護技術」(p.210~216)</p>
		e 部分浴	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 A-2-4 「手浴」(p.179~182)、A-2-5 「足浴とフットケア」(p.182~184)</p> <p>在宅看護論 : 第6章 B-5 「清潔に関する在宅看護技術」(p.210~216)</p>
		f 陰部洗浄	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 A-2-6 「陰部洗浄」(p.185~188)</p> <p>在宅看護論 : 第6章 B-5 「清潔に関する在宅看護技術」(p.210~216)</p>
		g 整容	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 A-2-7 「整容」(p.188~195)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所	
15 患者の安全・安楽を守る看護技術	A 療養環境	h 寝衣交換	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 6 章 B-2-2 「病衣・寝衣の交換」 (p.206~210)	
		a 病室環境	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 1 章 「環境調整技術」 (p.9~24)	
		b 共有スペース	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 1 章 「環境調整技術」 (p.9~24)	
			c 居住スペース	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 1 章 「環境調整技術」 (p.9~24)
	B 医療安全対策	a 転倒・転落の防止	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 14 章 E 「転倒・転落防止」 (p.471~474) 在宅看護論 : 第 5 章 C-2-1 「転倒予防に関する教育と環境整備」 (p.139)、C-2-2 「転倒事故の予防」 (p.140~141)、C-2-3 「転落事故の予防」 (p.141~142) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 4 章 B 「転倒・転落事故防止」 (p.142~168) リハビリテーション看護 : 第 4 章 A-6-2 「転倒」 (p.195~196)、B-5-7 「合併症の予防と管理(転倒と骨折)」 (p.226)	
		b 誤薬の防止	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 14 章 B 「誤薬防止」 (p.463~469) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 2 章 「患者に投与する業務における事故防止」 (p.39~112) 薬理学 : 第 1 章 B-2 「薬物療法における看護師の役割」 (p.9~13) 臨床薬理学 : 第 1 章 B 「薬物治療の実際」 (p.23~36)	
		c 患者誤認の防止	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 14 章 D 「患者誤認防止」 (p.470~471) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 5 章 A-2 「患者間違いのおもな要因と防止」 (p.187~194)、第 6 章 C-1-5 「患者間違いの防止」 (p.211)	
		d 誤嚥・窒息の防止	在宅看護論 : 第 5 章 C-2-5 「窒息の予防」 (p.143~144)、第 6 章 B-2-2 「食生活・嚥下に関するアセスメント」 (p.189~190) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 4 章 C 「誤嚥事故防止」 (p.168~174)、第 6 章 C-2-2 「摂食中の窒息・誤嚥事故防止における患者とのコミュニケーション」 (p.212)	
		e 情報伝達と共有・管理	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 1 章 C 「看護の継続性と情報共有」 (p.40~53) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 G 「情報のマネジメント」 (p.128~136) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 6 章 「医療安全とコミュニケーション」 (p.204~214)、第 7 章 A 「組織としての医療安全対策」 (p.216~2224) クリティカルケア看護学 : 第 7 章 B-1 「リスクマネジメント」 (p.229~231)	
	C 感染防止対策	a 標準予防策 (スタンダードプリコーション)	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 13 章 B 「標準予防策(スタンダードプリコーション)」 (p.427~435) 成人看護学 [11] (感染症) : 第 6 章 A 「感染予防」 (p.322~351) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 2 章 C-2-3 「院内感染対策」 (p.43~48) 微生物学 : 第 12 章 C-3-2 「標準予防策」 (p.207~208) 救急看護学 : 第 4 章 A 「周囲の安全確認とスタンダードプリコーション」 (p.96~98) クリティカルケア看護学 : 第 3 章 H-3 「感染対策」 (p.97~98)	
		b 手洗い	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 13 章 B-2-1 「手指衛生」 (p.427~430)	

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 無菌操作	<p>成人看護学 [11] (感染症) : 第 6 章 A-4-1 「適切な手指衛生」 (p.324~325)</p> <p>臨床外科看護総論 : 第 6 章 E-1-2 「標準予防策の実際」 (p.215~217)、第 8 章 C-2-1 「手術時の手洗い・手指消毒」 (p.287~289)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 5 章 G-1 「手洗い」 (p.176)</p> <p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 13 章 E 「無菌操作」 (p.444~452)</p>
		d 滅菌と消毒	<p>臨床外科看護総論 : 第 8 章 A-2-6 「無菌操作」 (p.265)</p> <p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 13 章 D 「洗浄・消毒・滅菌」 (p.439~444)</p> <p>成人看護学 [11] (感染症) : 第 6 章 A-6 「洗浄・消毒・滅菌」 (p.332~335)</p> <p>薬理学 : 第 13 章 「消毒薬」 (p.290~295)</p> <p>微生物学 : 第 9 章 「滅菌と消毒」 (p.143~154)</p>
		e 針刺し・切創の防止	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 13 章 H 「針刺し防止策」 (p.456~459)</p> <p>成人看護学 [11] (感染症) : 第 6 章 A-8 「職業感染対策」 (p.336~339)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 7 章 B-3-3 「注射・点滴実施時の間違い」 (p.235~236)</p> <p>臨床検査 : 第 2 章 E-3-1 「採血時の針刺し事故とその対策」 (p.50~51)</p>
		f 感染性廃棄物の取り扱い	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 13 章 F 「感染性廃棄物の取り扱い」 (p.452~453)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 F-5 「廃棄物の取り扱いと管理」 (p.127~128)</p> <p>微生物学 : 第 9 章 A 「バイオハザードとバイオセーフティ」 (p.144)</p> <p>臨床検査 : 第 2 章 E-3-2 「患者および検体からの業務上の感染とその予防」 (p.51~52)</p>
16 診療に伴う看護技術	A 栄養補給	a 経管・経腸栄養法	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 2 章 D-1 「経管栄養法」 (p.47~54)</p> <p>成人看護学 [5] (消化器) : 第 4 章 C-2-1 「栄養療法の概要」 (p.122~124)</p> <p>在宅看護論 : 第 6 章 C-4 「経管栄養法」 (p.254~265)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 2 章 F 「経管栄養(注入)業務と事故防止」 (p.113~118)</p> <p>栄養学 : 第 9 章 B-1 「経腸栄養法」 (p.187~188)</p> <p>臨床外科看護総論 : 第 3 章 D-3-2 「経腸栄養法」 (p.120)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 5 章 D-3-1 「栄養摂取方法と管理上のポイント」 (p.168~169)</p> <p>栄養食事療法 : 第 2 章 B-2 「経管・経腸栄養法」 (p.24~26)</p>
		b 経静脈栄養法	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第 2 章 D-2 「中心静脈栄養法」 (p.55)</p> <p>成人看護学 [5] (消化器) : 第 4 章 C-2-1 「栄養療法の概要」 (p.122~124)</p> <p>在宅看護論 : 第 6 章 C-5 「在宅中心静脈栄養法 (HPN)」 (p.265~270)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 3 章 A-3-1 「中心静脈ラインの管理におけるおもな危険とその要因」 (p.123~125)</p> <p>栄養学 : 第 9 章 B-2 「静脈栄養法」 (p.188~189)</p> <p>臨床外科看護総論 : 第 2 章 D-3-1 「静脈栄養法」 (p.119)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 5 章 D-3-1 「栄養摂取方法と管理上のポイント」 (p.168~169)</p> <p>栄養食事療法 : 第 2 章 B-3 「経静脈栄養法」 (p.26)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
	B 薬物療法	a 与薬方法	臨床薬理学：第4章 B-2「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」(p.243~251) 基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第9章「与薬の技術」(p.285~343) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第2章「患者に投与する業務における事故防止」(p.39~112) 薬理学：第2章 B-1「薬物の投与経路」(p.24~28) クリティカルケア看護学：第5章 C-1「輸液の管理」(p.159~162)
		b 薬効・副作用(有害事象)の観察	臨床薬理学：第1章 B-1「患者と薬物治療」(p.23~25) 基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第9章 A「与薬の基礎知識」(p.286~290) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第2章 B-5-4「注射実施後(点滴中)の観察・管理で知っておくべき注射薬の知識」(p.65~66)、E-4「内服と薬事故防止のために必要な知識・技術」(p.110~112) 薬理学：第1章 B-2「薬物療法における看護師の役割」(p.9~13) 臨床検査：第5章 N「血中薬物濃度の検査」(p.165~167) 臨床薬理学：第1章 B-2「薬物療法の評価」(p.26~29)
	C 輸液・輸血管理	a 刺入部位の観察	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第9章 H-2-4「静脈内注射」(p.320~336) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第2章 B-3-2「注射実施後(点滴中)の観察・管理におけるおもな危険とその要因」(p.56~59) 臨床外科看護総論：第3章 C-2「輸液法」(p.113~114) 救急看護学：第6章 H-1「輸液」(p.313~314)
		b 輸液ポンプ、シリンジポンプ	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第9章 H-2-4「静脈内注射」(p.320~336) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第2章 C「注射業務に用いる機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ関連)での事故防止」(p.66~80) 臨床外科看護総論：第3章 C-2「輸液法」(p.113~114) 救急看護学：第6章 H-1「輸液」(p.313~314)
		c 点滴静脈内注射	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第9章 H-2-4「静脈内注射」(p.320~336) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第2章 A「業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止(総論)」(p.39~42)、B「注射業務と事故防止」(p.42~66)
		d 輸血	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第9章 I「輸血管理」(p.337~343) 成人看護学 [4] (血液・造血器)：第4章 C「造血器腫瘍」(p.88~90)、第5章 D-5「輸血療法」(p.187~190) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第2章 D「輸血業務と事故防止」(p.81~93) 薬理学：付章 B「輸血剤」(p.305~311) 救急看護学：第6章 H-2「輸血」(p.315~316)
	D 採血	a 穿刺部位	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第11章 B-1「血液検査」(p.375~382) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第2章 B-3-2「静脈穿刺時の危険——神経損傷、動脈誤穿刺」(p.56)
		b 採血方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第11章 B-1「血液検査」(p.375~382) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第2章 D-2-2「血液型の違いにつながる採血ミスの2つのパターン」(p.85~86) 臨床検査：第2章 D-3-2「血液」(p.38~41)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所	
E 電法	電法	a 電法の種類と適応	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章 B-1 「援助の基礎知識」 (p.142~143)	
		b 温電法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章 B-2-1 「温電法」 (p.143~144)	
		c 冷電法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章 B-2-2 「冷電法」 (p.145)	
	F 呼吸管理	酸素療法の原則	a 酸素療法の原則	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 A 「酸素吸入療法」 (p.214~220) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2 「酸素療法」 (p.111~114) 臨床外科看護総論 : 第3章 B-1 「酸素療法」 (p.101~105) 救急看護学 : 第6章 C 「酸素投与」 (p.295~297)
			b 酸素ボンベ	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 A 「酸素吸入療法」 (p.214~220) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2 「酸素療法」 (p.111~114)
			c 酸素流量計	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 A 「酸素吸入療法」 (p.214~220) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2 「酸素療法」 (p.111~114) 救急看護学 : 第6章 C 「酸素投与」 (p.295~297)
		鼻腔カニューラ	d 鼻腔カニューラ	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 A 「酸素吸入療法」 (p.214~220) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2 「酸素療法」 (p.111~114) 救急看護学 : 第6章 C 「酸素投与」 (p.295~297)
			e 酸素マスク	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 A 「酸素吸入療法」 (p.214~220) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2 「酸素療法」 (p.111~114) 救急看護学 : 第6章 C 「酸素投与」 (p.295~297)
			f ネブライザー	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 D 「吸入」 (p.237~240) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2 「酸素療法」 (p.111~114) クリティカルケア看護学 : 第5章 B-6 「吸入療法」 (p.158~159)
		口腔内・鼻腔内吸引	g 口腔内・鼻腔内吸引	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 B-2-3 「吸引」 (p.228~233) 救急看護学 : 第6章 F-1 「口腔・鼻腔内吸引」 (p.304~306)
			h 気管内吸引	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 B-2-3 「吸引」 (p.228~233) 臨床外科看護総論 : 第10章 C-2-2 中 「気管吸引」 (p.366~367) 救急看護学 : 第6章 F-2 「気管吸引」 (p.306~308) クリティカルケア看護学 : 第5章 B-3 「気管吸引の技術」 (p.154~155)
i 体位ドレナージ			基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 B-2-1 「体位ドレナージ」 (p.223~225) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第6章 B-1 「体位ドレナージ」 (p.234)	
G 救命救急処置	a 気道の確保	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第10章 B-2 「一次救命処置の実際」 (p.352~361) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-5 「気道確保」 (p.122~126) 臨床外科看護総論 : 第5章 A-2-2 「気道確保——救急のA」 (p.186~187) 救急看護学 : 第5章 A-1-1 「気道確保」 (p.163~164)、A-2-3 「気管挿管・気道確保」 (p.172~173)		



大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 人工呼吸	クリティカルケア看護学：第5章 A-1「一次救命処置」(p.146~149) 基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第10章 B-2「一次救命処置の実際」(p.352~361) 臨床外科看護総論：第5章 A-2-3「人工呼吸(呼吸の確保・維持)——救急のB」(p.187~189) 救急看護学：第5章 A-1-3「人工呼吸」(p.165~167)、A-2-3「気管挿管・気道確保」(p.172~173) クリティカルケア看護学：第5章 A-1「一次救命処置」(p.146~149)
		c 胸骨圧迫	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第10章 B-2「一次救命処置の実際」(p.352~361) 臨床外科看護総論：第5章 A-2-4「心臓マッサージ」(p.189~190) 救急看護学：第5章 A-1-2「胸骨圧迫」(p.164~165) クリティカルケア看護学：第5章 A-1「一次救命処置」(p.146~149)
		d 直流除細動器	成人看護学 [3] (循環器)：第5章 D-4-2「直流通電による電気ショック」(p.196) 救急看護学：第5章 A-2「二次救命処置(ALS)」(p.170~173) クリティカルケア看護学：第5章 A-1「一次救命処置」(p.146~149)
		e 自動体外式除細動器 (AED)	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第10章 B-2「一次救命処置の実際」(p.352~361) 成人看護学 [3] (循環器)：第5章 D-3-7「心室細動」(p.190~191) 臨床外科看護総論：第5章 A-2-4-NOTE「電氣的除細動器」(p.191) 救急看護学：第5章 A-1-4「除細動」(p.167~170) クリティカルケア看護学：第5章 A-1「一次救命処置」(p.146~149)
		f 止血法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第10章 C「止血法」(p.363~366) 成人看護学 [4] (血液・造血器)：第5章 B-3「看護活動」(p.144~145) 臨床外科看護総論：第4章 A-4「止血」(p.151~152) 救急看護学：第6章 B「止血法」(p.289~295)
		g 体温管理	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第7章 F「体温管理の技術」(p.247~255) 救急看護学：第5章 H「体温異常への対応」(p.224~229) クリティカルケア看護学：第5章 E「体温管理」(p.170~173)
		h トリアージ	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第7章 B-3-2「災害サイクル別の看護活動」(p.326~333) 基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第10章 A-3「トリアージ」(p.349~350) 臨床外科看護総論：第5章 B-3-2「初期情報からのアセスメントおよびトリアージ」(p.195~198) 救急看護学：第1章 C-3-4「災害時の医療」(p.36~37)、第3章 F「災害時における対応」(p.86~93)
	H 皮膚・創傷の管理	a 包帯法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第8章 B-3「包帯法」(p.272~276)
		b 創傷管理	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第8章 A「創傷管理の基礎知識」(p.262~265)、B「創傷処置」(p.266~272) 臨床外科看護総論：第1章 E「創傷治療」(p.34~52) 救急看護学：第6章 O「創傷処置」(p.341~342) クリティカルケア看護学：第3章 I「創傷とケア」(p.98~105)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 褥瘡の予防・処置	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第8章 C 「褥瘡予防」 (p.277~283)</p> <p>成人看護学 [7] (脳・神経) : 第6章 A-13 「褥瘡の予防と看護」 (p.301~306)</p> <p>成人看護学 [12] (皮膚) : 特論 「褥瘡患者の看護」 (p.245~266)</p> <p>在宅看護論 : 第6章 C-1 「褥瘡の予防とケア」 (p.232~240)</p> <p>臨床外科看護総論 : 第1章 E-7 「褥瘡の予防と処置」 (p.47~52)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第3章 I-2-2 「褥瘡」 (p.102)</p> <p>リハビリテーション看護 : 第4章 C-6-1 「褥瘡」 (p.256~258)</p>